



たのしく
「けん脚」

データでみる福島市の健康 (令和7年度版)



目次

1. 人口動態 編

- ・人口推移
- ・人口ピラミッド
- ・年齢3区分別人口
- ・出生数・出生率
- ・合計特殊出生率
- ・平均寿命
- ・お達者度
- ・死亡数・死亡率
- ・年齢階級別 死亡数
- ・死因分類別 死亡数
- ・標準化死亡比(SMR)

2. 特定健診 編

- ・国保特定健診 受診率
- ・国保特定健診 メタボ予備群・該当者
- ・国保特定健診 有所見率
(BMI・腹囲・LDL・HbA1c・収縮期血圧)

3. がん検診 編

- ・がん検診 受診率
- ・がん検診 精密検査 受診状況

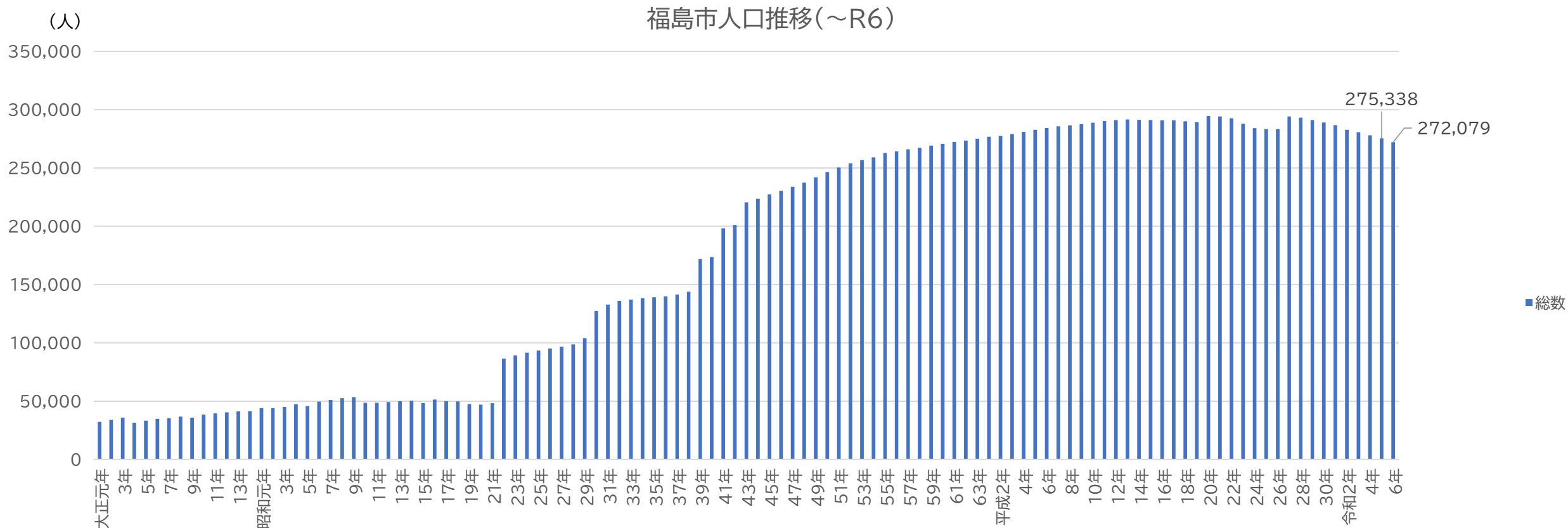
4. レセプト 編

- ・医療費分類
- ・性別年齢別 各疾病有病率

5. 介護保険 編

- ・要介護・要支援認定者

1. 人口動態 編



資料 福島市推計人口、国勢調査

(注) ・大正12年以前は12月31日現在(ただし大正9年は10月1日現在)、昭和20年は11月1日現在、その他は毎年10月1日現在である。

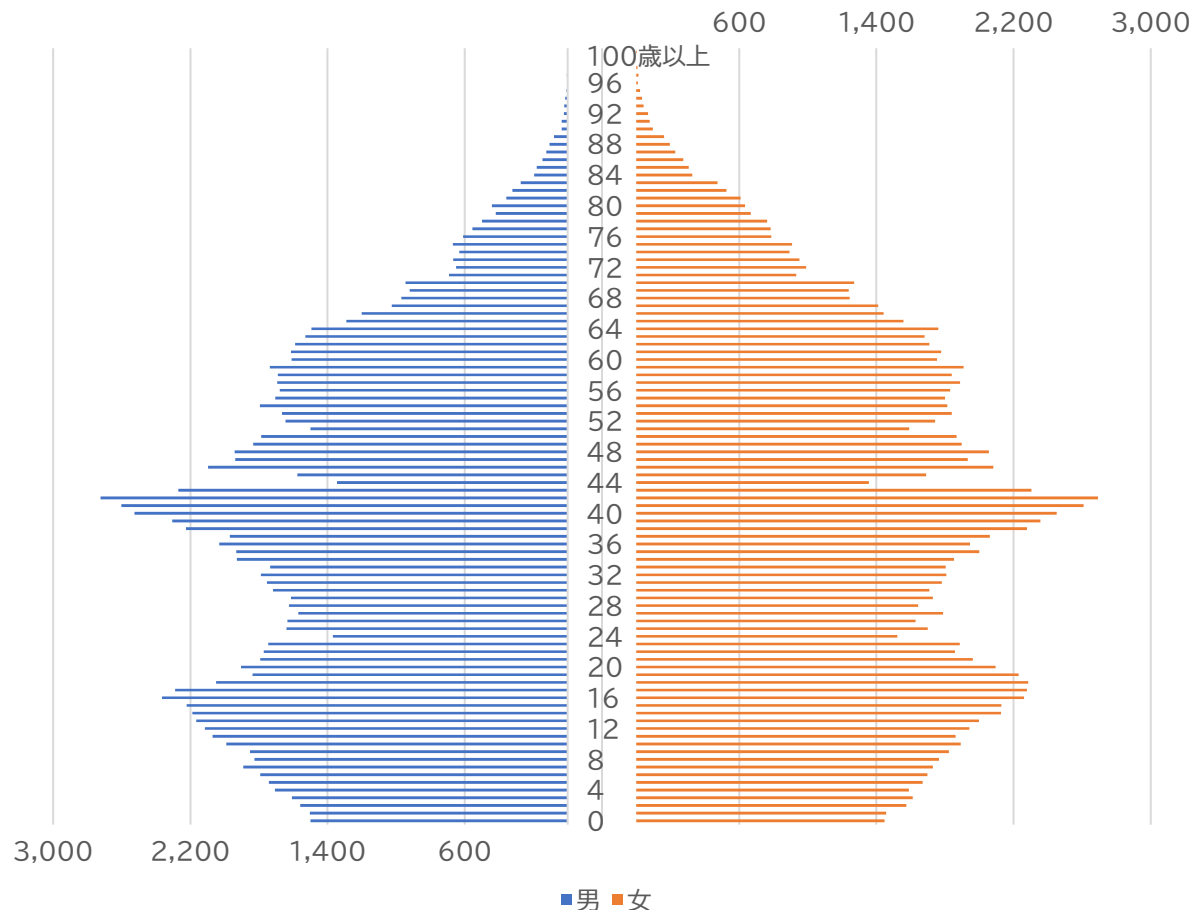
・※印は合併及び編入の行われた年である。

- ・平成20年の飯野町合併、平成23年の東日本大震災などの影響と思われる不規則な人口変動がみられたが、平成27年以降の10年間は右肩下がりの減少となっている。
- ・令和6年10月1日現在の推計人口は272,079人。前年同時期の275,338人と比較すると、3,259人の減少となった。

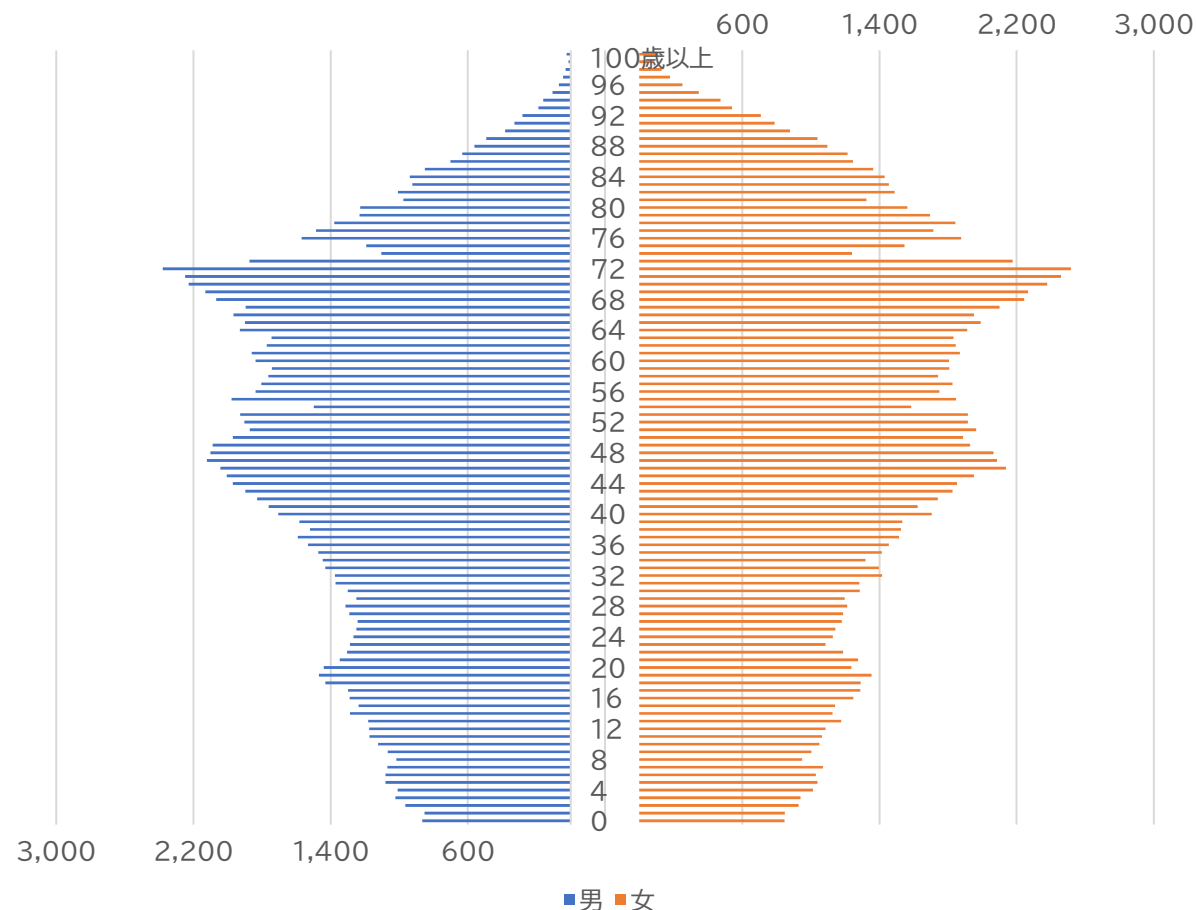
人口ピラミッド

令和7年度版

平成2年(1990)福島市人口ピラミッド(人)



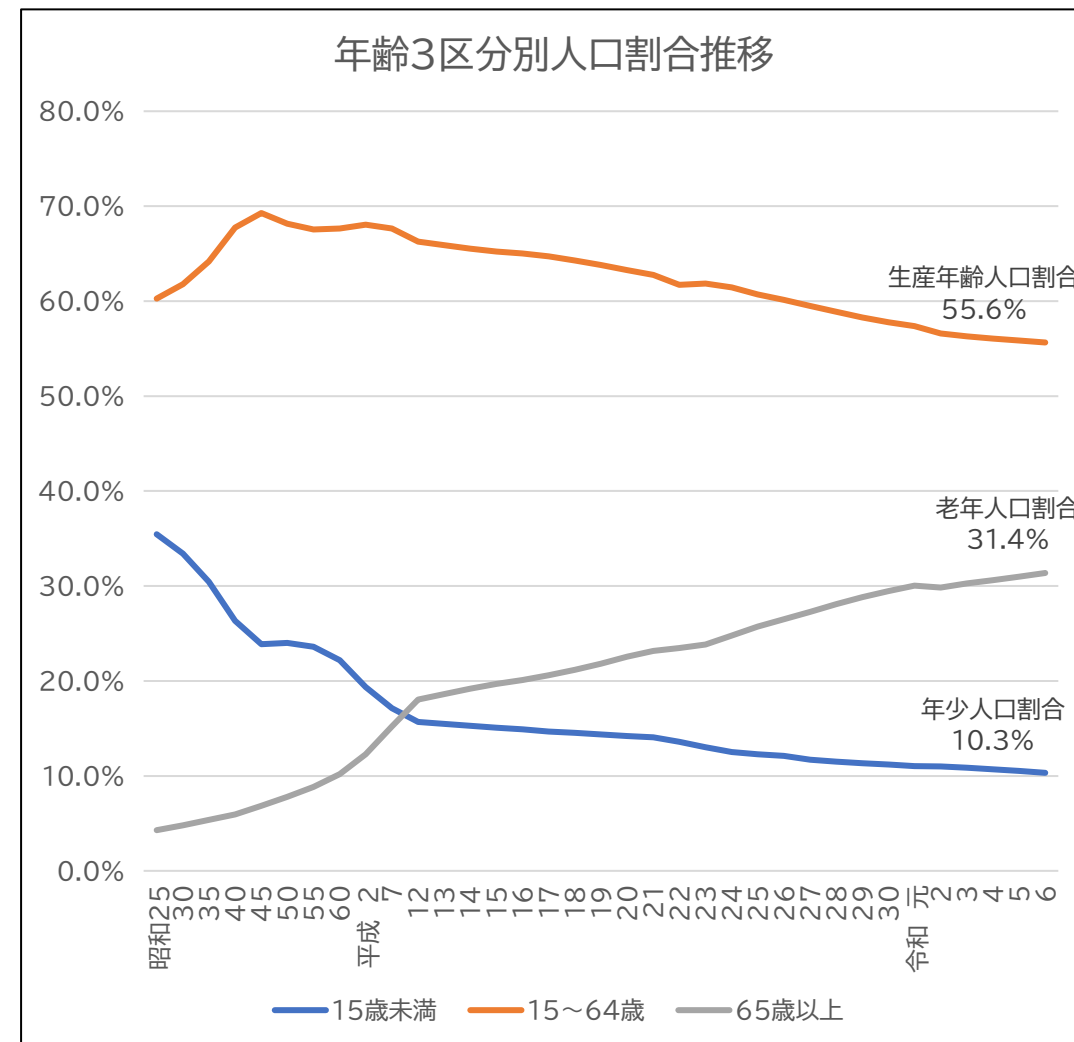
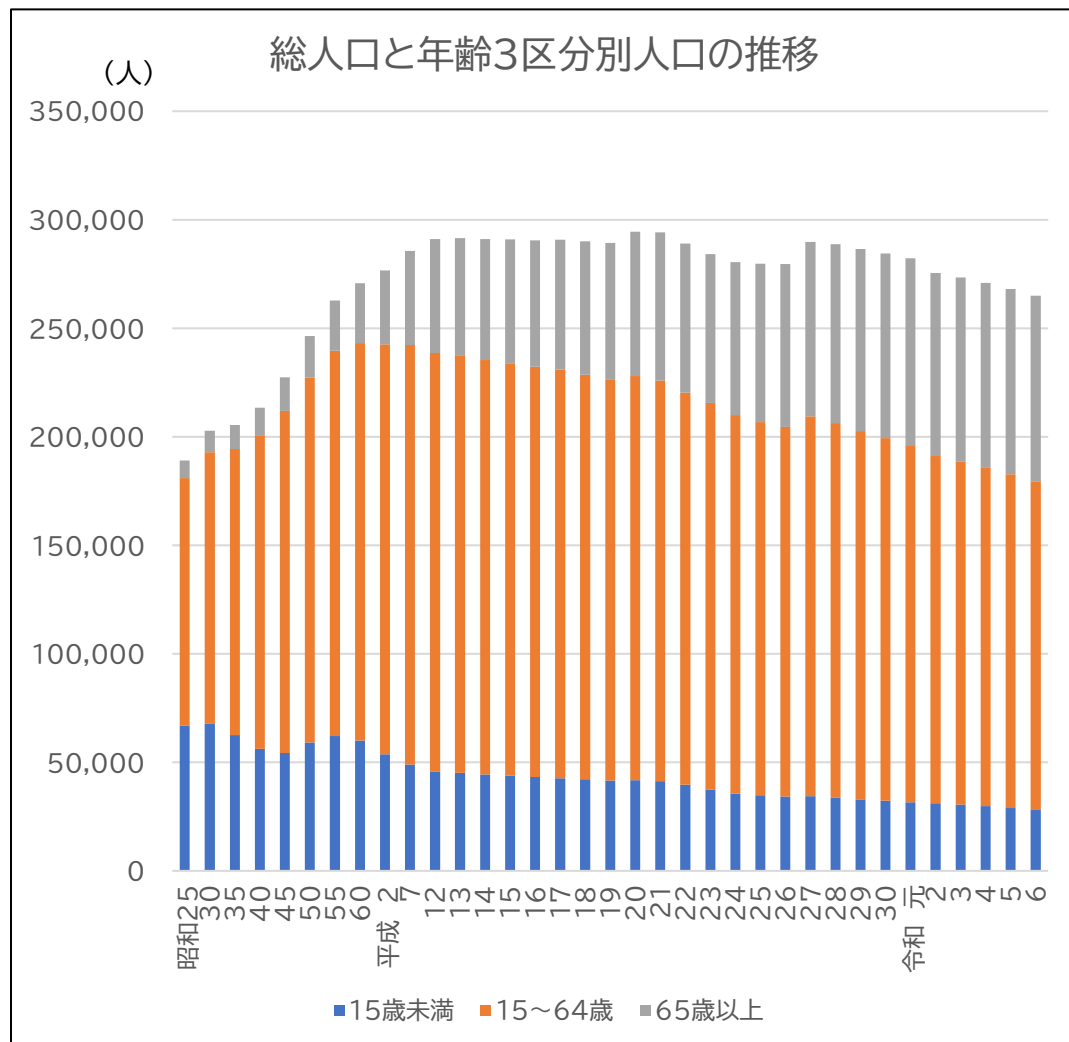
令和2年(2020)福島市人口ピラミッド(人)



- ・年齢構成ではいわゆる団塊の世代(令和2年時点で71～73歳)が最も人口が多い。
- ・平成2年の15歳(令和2年:45歳)から年齢が下がるにつれて人口が減少しており、出生数が平成2年には男女とも1400人前後のところ令和2年では男女ともに800人程度まで減少している。

年齢3区分別人口

令和7年度版

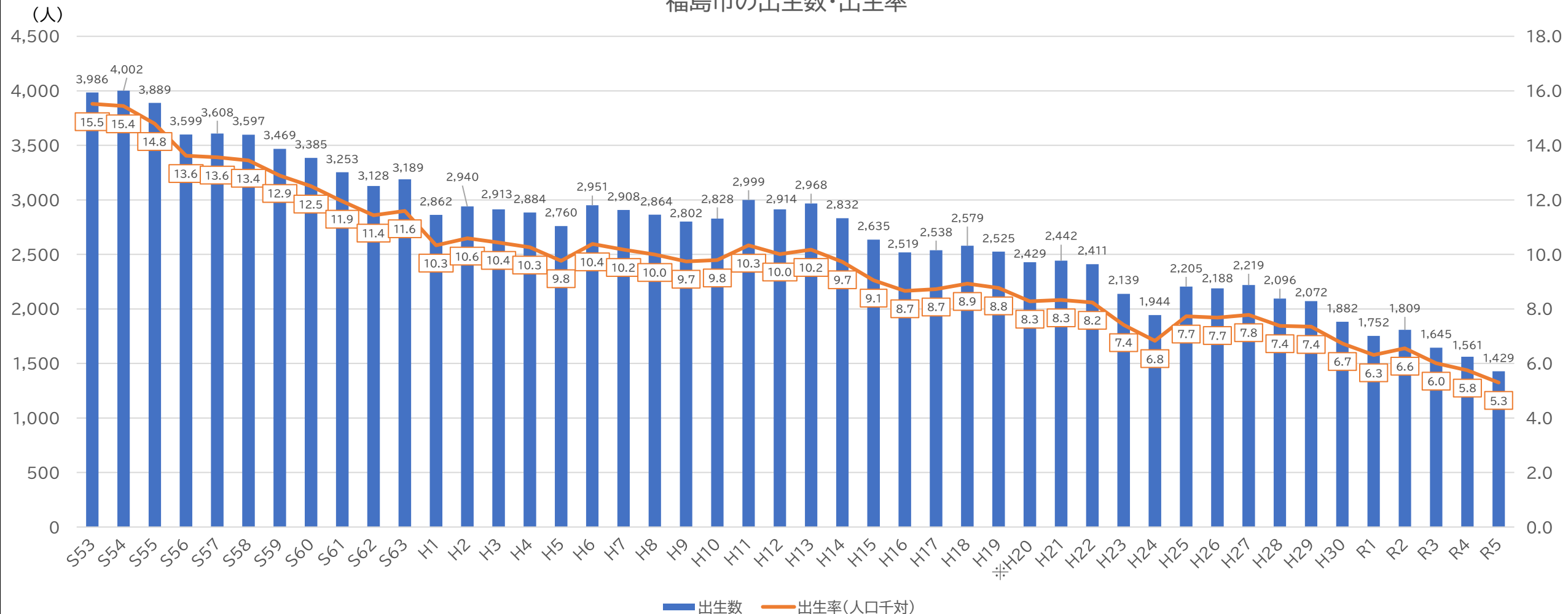


- ・年少人口割合(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)は減少、老年人口割合(65歳以上)は増加し、少子高齢化が進んでいる。
- ・令和6年は、年少人口割合10.3%、生産年齢人口割合55.6%、老年人口割合31.4%

出生数・出生率

令和7年度版

福島市の出生数・出生率



資料 人口動態調査票より市にて独自算出数使用

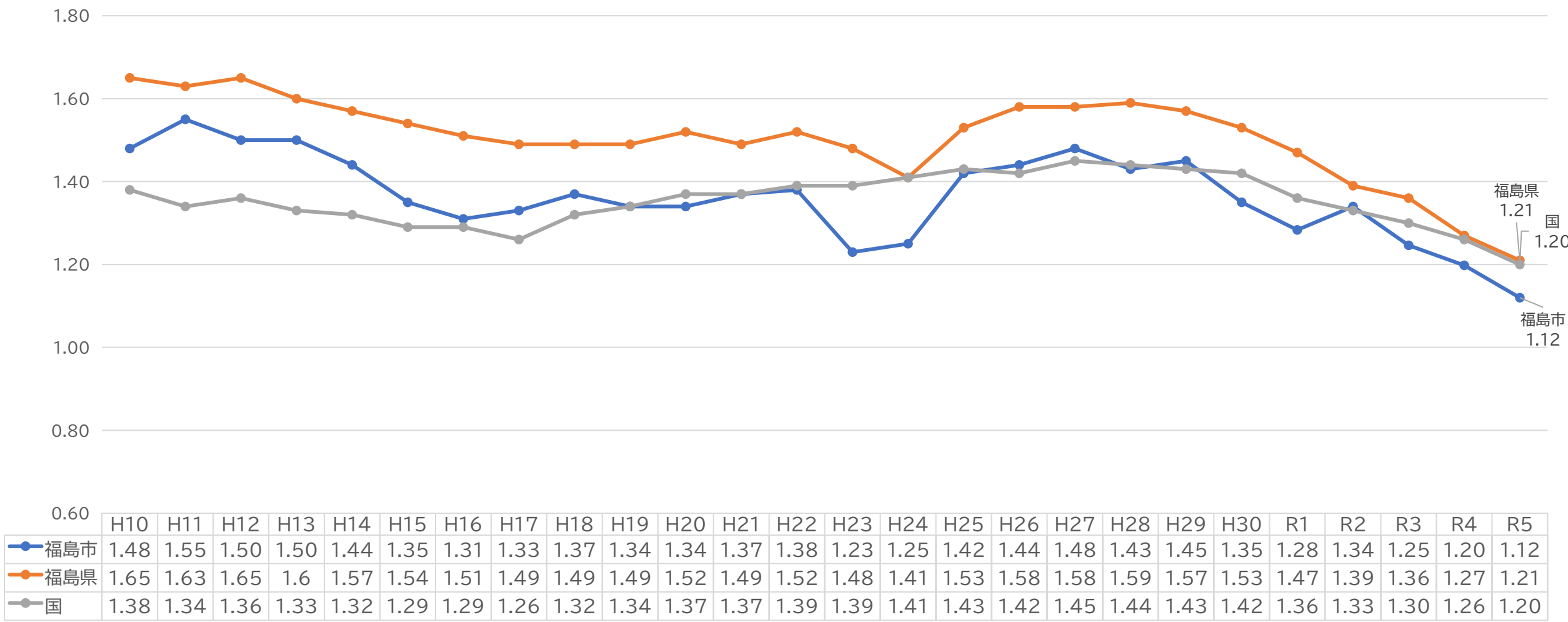
※合併により、平成20年7月1日以降は旧飯野町分を含む

・令和5年の出生数は1,429人(前年から132人減)。出生率は5.3。出生数、出生率ともに昭和53年以降最低となっている。

合計特殊出生率

令和7年度版

合計特殊出生率の推移比較



資料 市:人口動態調査票より市にて独自算出数使用
国/県:「人口動態統計(確定数)の概況」より

・令和5年の合計特殊出生率は1.12。前年の1.20から0.08ポイント減となり、3年連続で減少している。

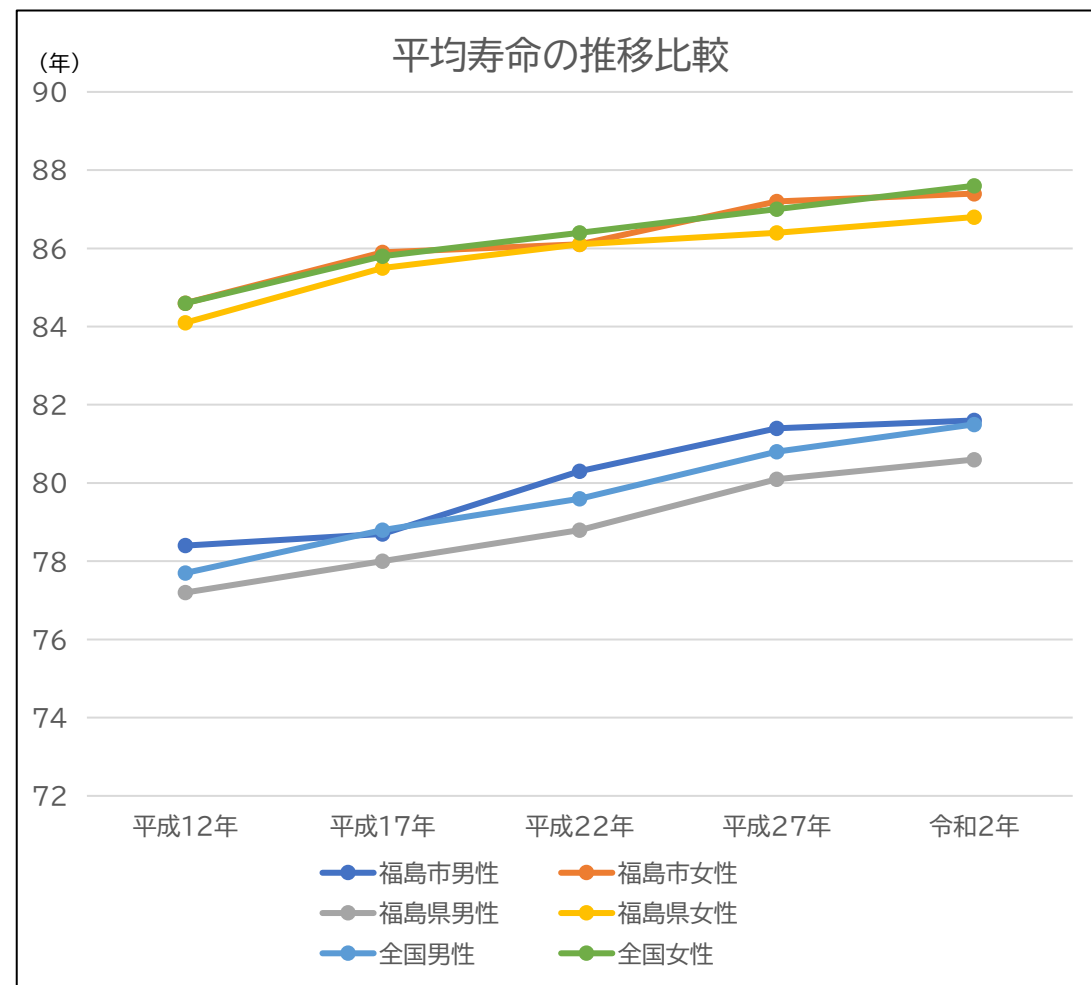
平均寿命

令和7年度版

単位:年

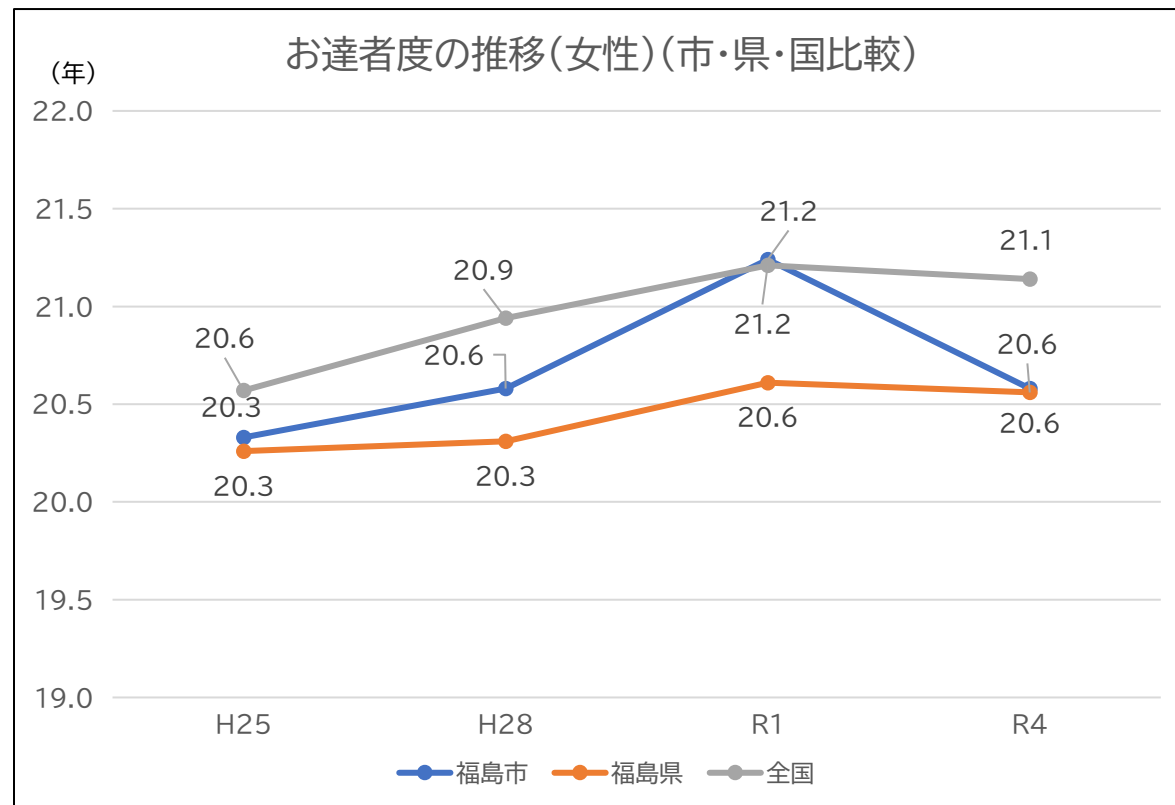
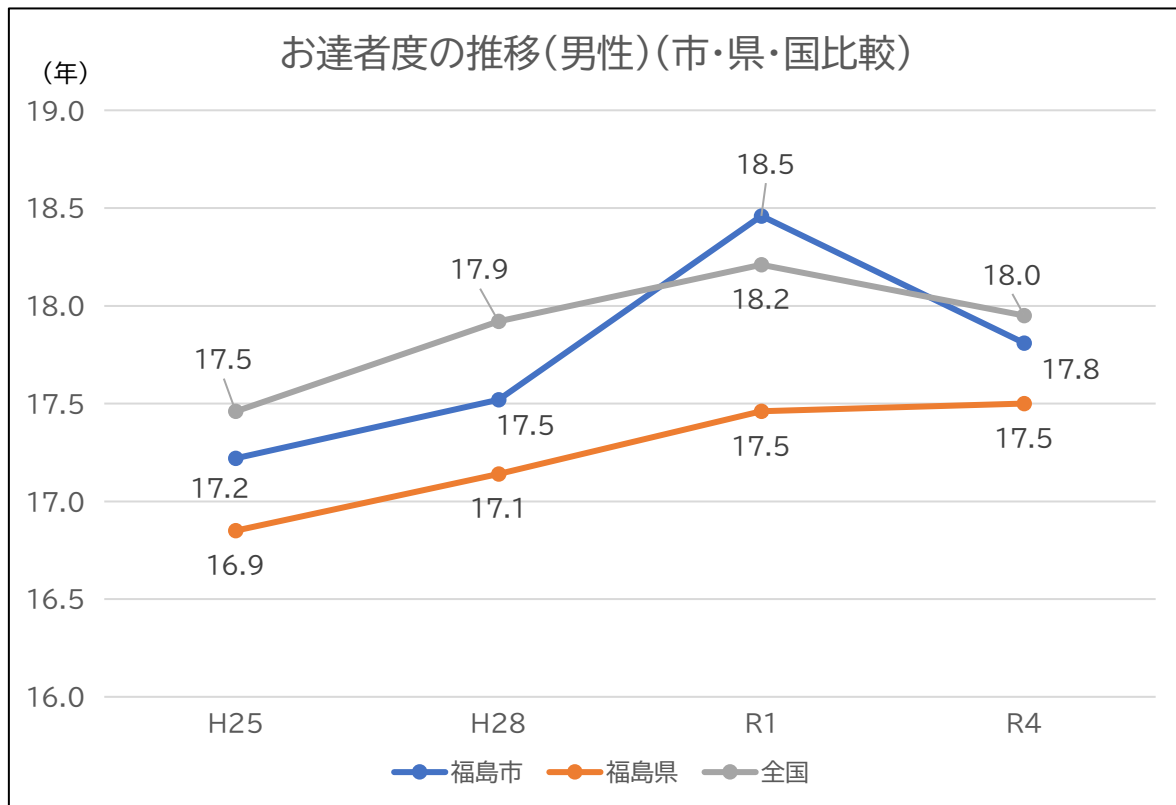
		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
福島市	男性	78.4	78.7	80.3	81.4	81.6
	女性	84.6	85.9	86.1	87.2	87.4
福島県	男性	77.2	78.0	78.8	80.1	80.6
	女性	84.1	85.5	86.1	86.4	86.8
全国	男性	77.7	78.8	79.6	80.8	81.5
	女性	84.6	85.8	86.4	87.0	87.6

資料:生命表



・令和2年の福島市の平均寿命は男性81.6年、女性87.4年で全国とほぼ同水準(全国 男性81.5年、女性87.6年)で、県よりも長い(県 男性80.6年、女性86.8年)。

お達者度:65歳の平均自立期間



資料 福島県市町村別「お達者度」の算定について

- ・福島市のお達者度は、令和元年までは大幅な延伸がみられたが、令和4年では男性が0.7年、女性が0.6年の減少となった。
- ・福島県、全国のお達者度も、令和元年から減少または横ばいで推移しているが、福島市は特に減少幅が大きい状況である。

お達者度(介護期間)

令和7年度版

令和4年(2022年)介護期間 (男性)

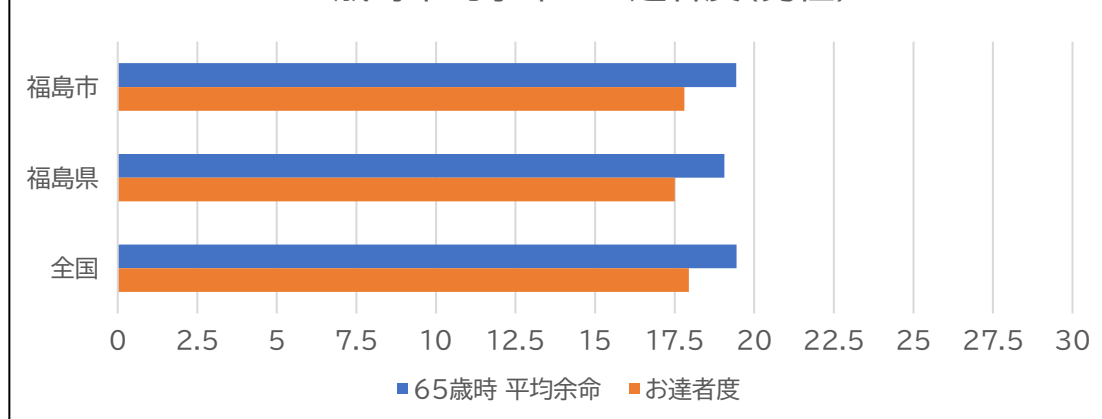
	65歳平均余命 (A)	お達者度 (B)	介護期間 (A)-(B)
福島市	19.43	17.81	1.62
福島県	19.06	17.50	1.56
全国	19.44	17.95	1.49

令和4年(2022年)介護期間 (女性)

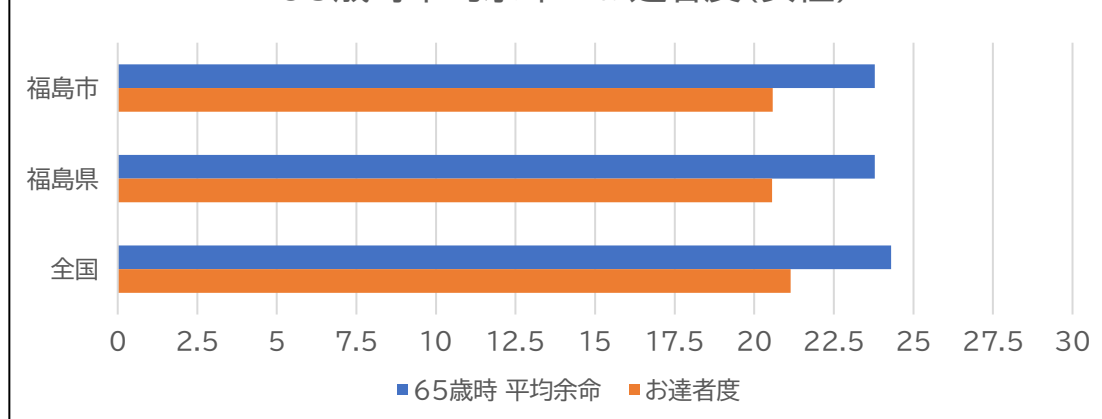
	65歳平均余命 (A)	お達者度 (B)	介護期間 (A)-(B)
福島市	23.79	20.58	3.21
福島県	23.79	20.56	3.23
全国	24.30	21.14	3.17

資料 福島県市町村別「お達者度」の算定について

65歳時平均余命とお達者度(男性)



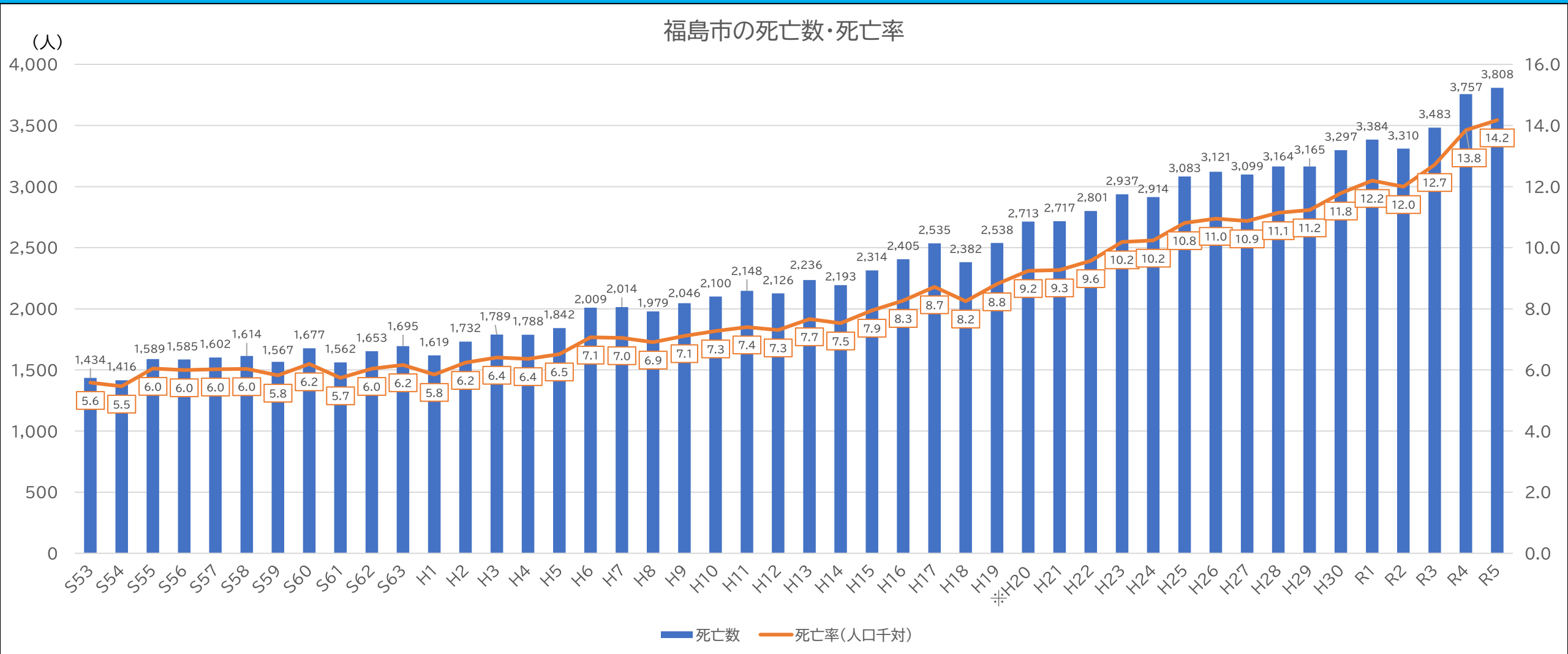
65歳時平均余命とお達者度(女性)



- ・65歳の平均余命からお達者度の期間を除くことで、介護が必要な期間を算出できる。
- ・令和4年の福島市の介護期間は男性1.62年、女性3.21年。
- ・福島市男性の平均余命は全国と同等だが、お達者度の期間が短いため、介護期間がわずかに長くなっている。

死亡数・死亡率

令和7年度版



資料 人口動態調査票より市にて独自算出数使用

※合併により、平成20年7月1日以降は旧飯野町分を含む

・令和5年の福島市における死亡数は3,808人(前年から51人増)。死亡率は14.2。死亡数、死亡率ともに昭和53年以降最高となっている。

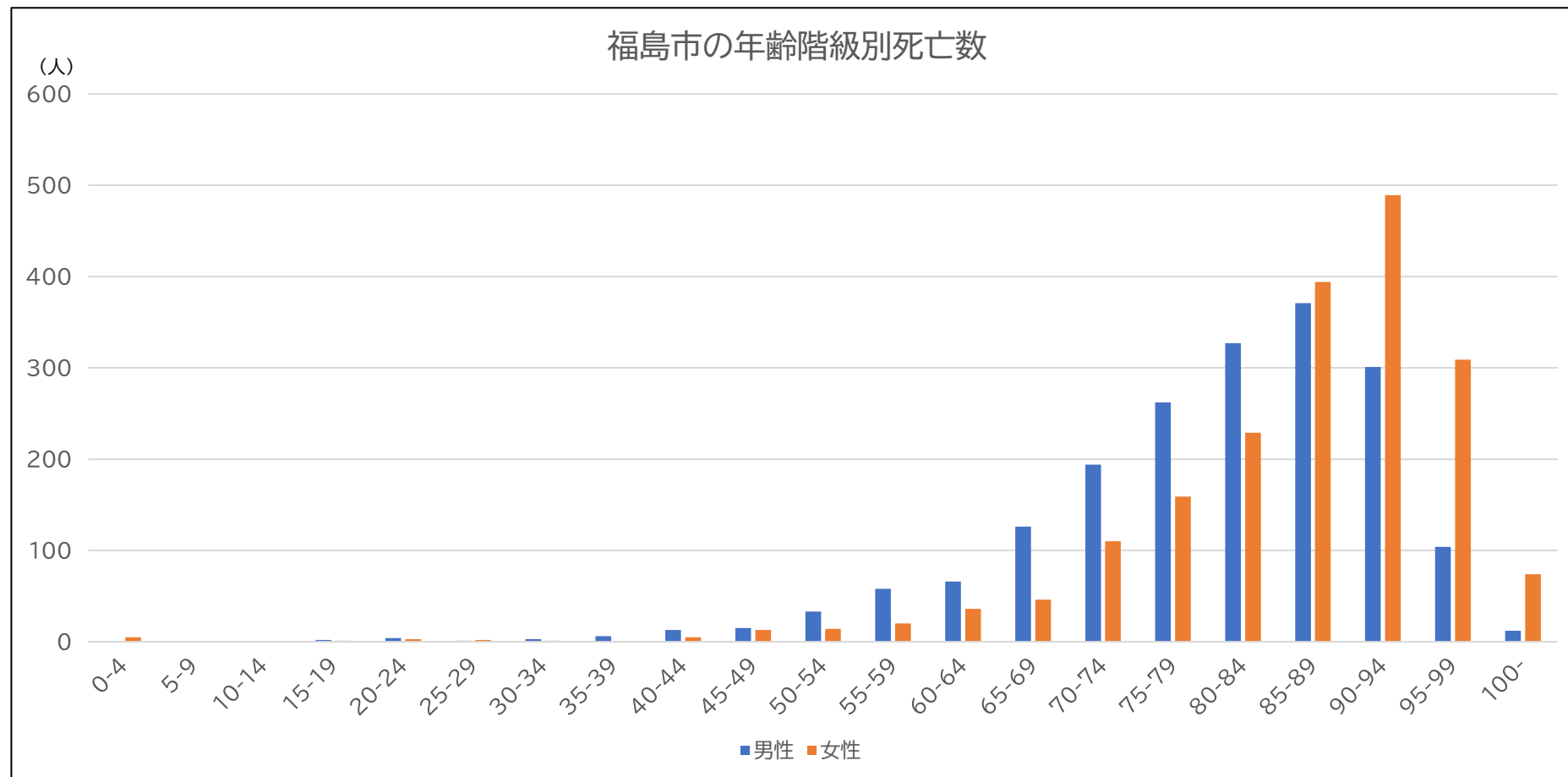
年齢階級別 死亡数

令和7年度版

令和5年

単位:人

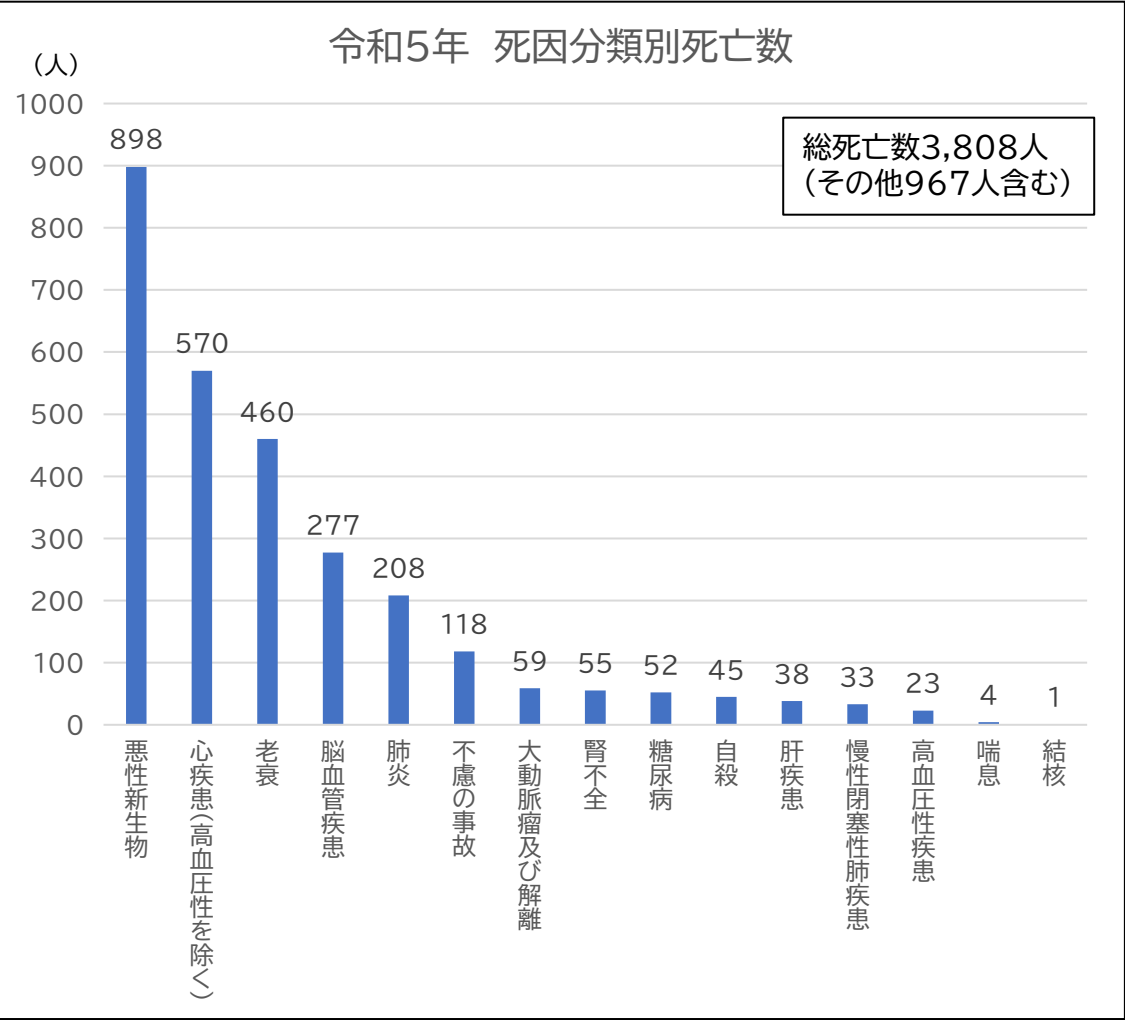
年齢	男性	女性	男女計
0-4	0	5	5
5-9	0	0	0
10-14	0	0	0
15-19	2	1	3
20-24	4	3	7
25-29	1	2	3
30-34	3	1	4
35-39	6	0	6
40-44	13	5	18
45-49	15	13	28
50-54	33	14	47
55-59	58	20	78
60-64	66	36	102
65-69	126	46	172
70-74	194	110	304
75-79	262	159	421
80-84	327	229	556
85-89	371	394	765
90-94	301	489	790
95-99	104	309	413
100-	12	74	86
計	1,898	1,910	3,808



資料 人口動態調査票より市にて独自に算出

・死亡者数について男性は80代後半、女性は90代前半がピークとなっている。

死因分類別 死亡数



資料 人口動態調査票より選択死因分類別死亡数を市にて独自算出

表 世代別 死因順位・死亡数・死亡原因に占める割合 男女

※その他を除く

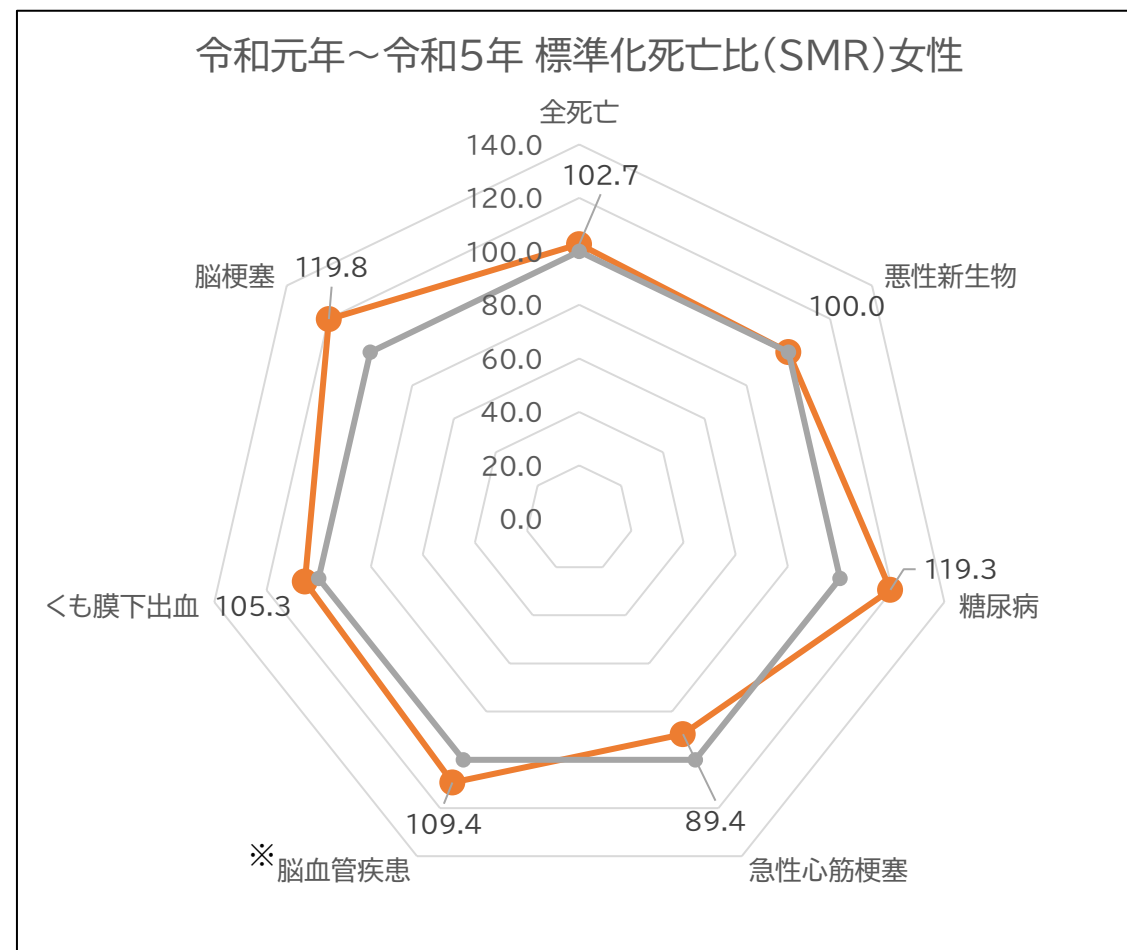
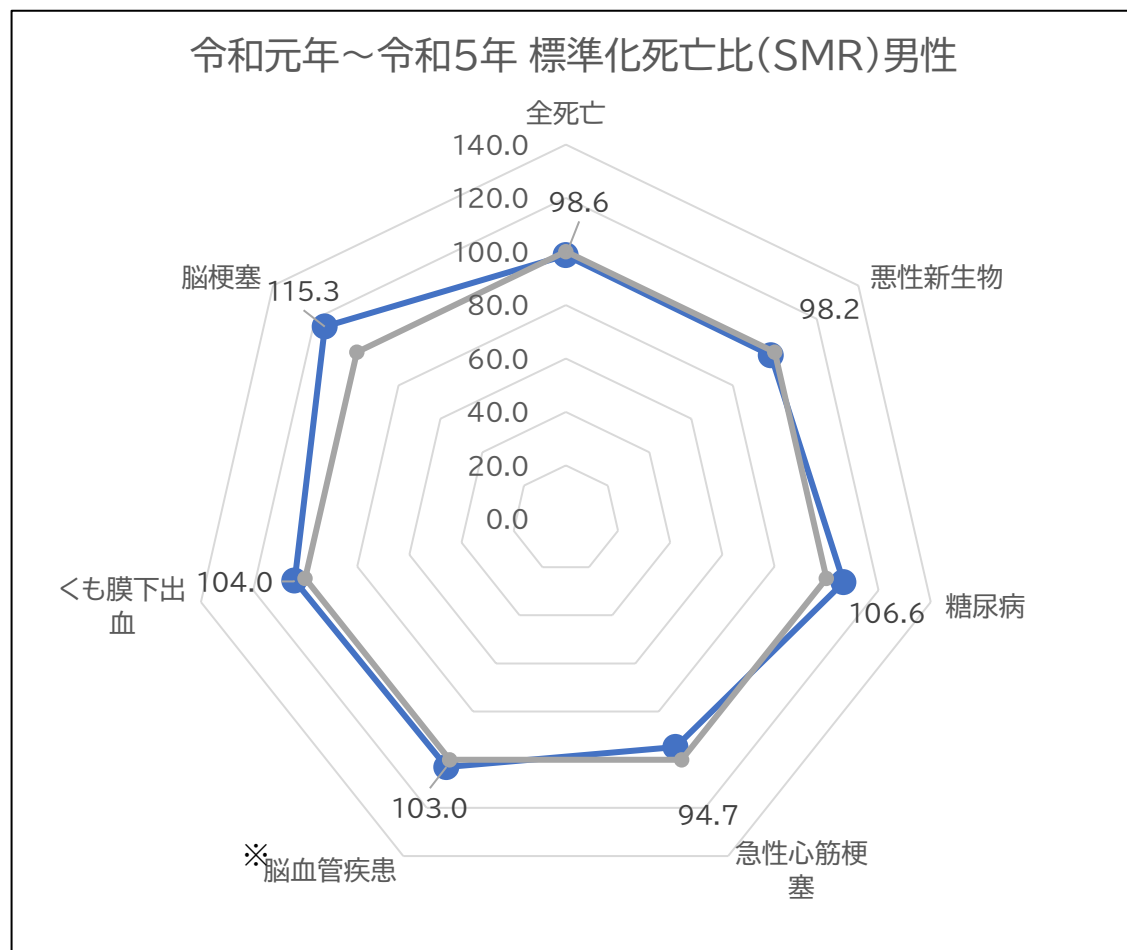
		0～39歳		40～64歳		65歳～		全世代	
第1位	死因	自殺		悪性新生物		悪性新生物		悪性新生物	
	死亡数 割合	13人 46.4%	91人 33.3%	805人 23.0%	898人 23.6%				
第2位	死因	不慮の事故		心疾患 (高血圧性を除く)		心疾患 (高血圧性を除く)		心疾患 (高血圧性を除く)	
	死亡数 割合	3人 10.7%	34人 12.5%	535人 15.3%	570人 15.0%				
第3位	死因	悪性新生物		脳血管疾患		老衰		老衰	
	死亡数 割合	2人 7.1%	34人 12.5%	460人 13.1%	460人 12.1%				
第4位	死因	心疾患 (高血圧性を除く)		自殺		脳血管疾患		脳血管疾患	
	死亡数 割合	1人 3.6%	21人 7.7%	243人 6.9%	277人 7.3%				
第5位	死因			肝疾患		肺炎		肺炎	
	死亡数 割合		12人 4.4%	202人 5.8%	208人 5.5%				

- ・令和5年の死因のうち、1位は悪性新生物(23.6%)、2位は心疾患(高血圧性を除く)(15.0%)、3位は老衰(12.1%)
- ・40～64歳では「悪性新生物」「心疾患」「脳血管疾患」を生活習慣病関連死因とみると、58.3%で6割近い割合を占めている。
- ・全世代でも同様に計算すると45.9%とおよそ2人に1人が該当する。

標準化死亡比(SMR)

令和7年度版

SMR…全国を基準(=100)とした場合に、その地域での年齢を調整したうえでの死亡率(死亡の起こりやすさ)がどの程度高い(低い)のかを表現したもの。



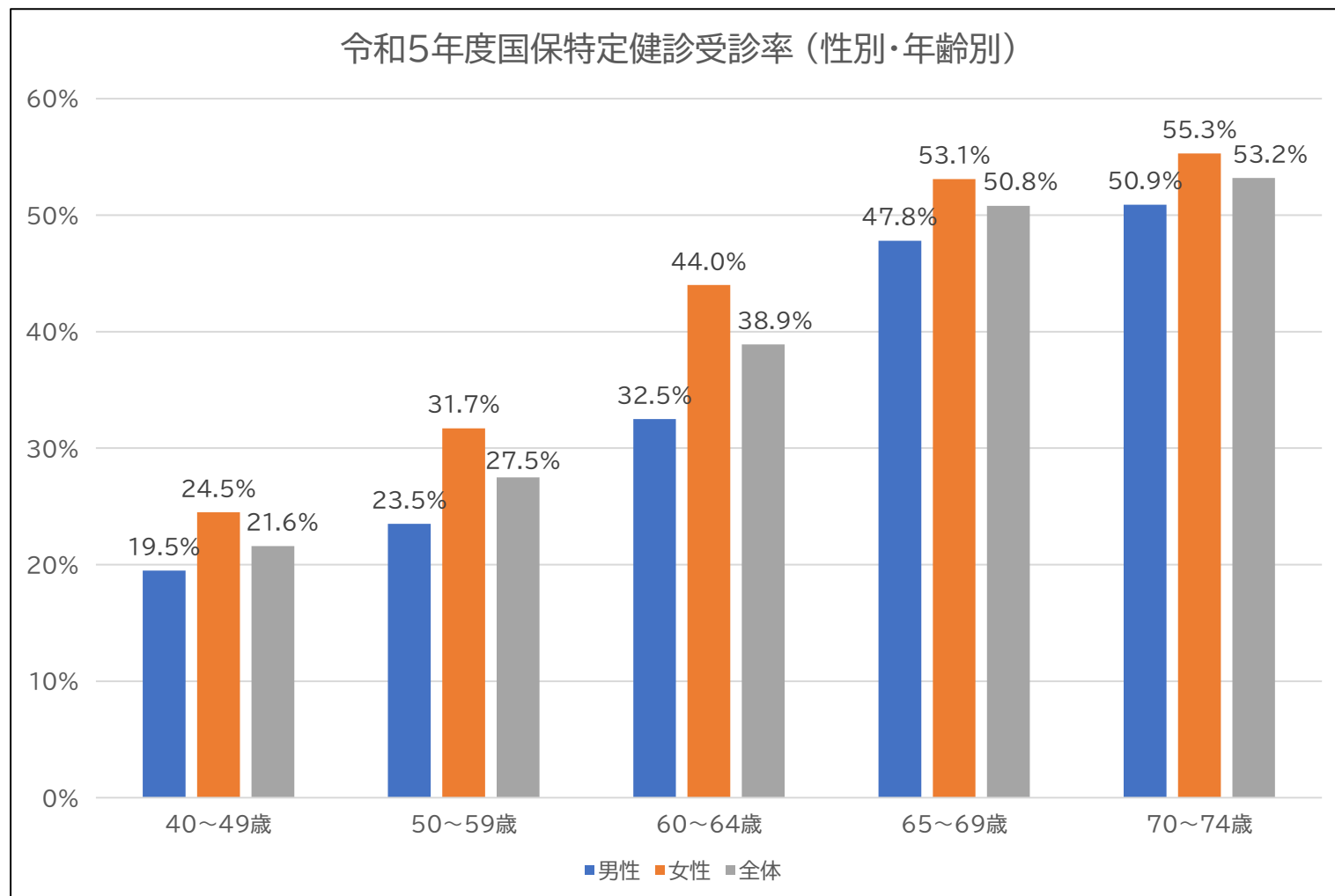
※ くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、その他合算

資料 人口動態調査票及び推計人口より市にて独自算出

- ・福島市の標準化死亡比(SMR)は、死因別では「脳梗塞」の値が特に高い。
- ・「糖尿病」においても標準化死亡比(SMR)が高く、男女差がみられた。
- ・「急性心筋梗塞」の標準化死亡比(SMR)は、全国(基準)よりわずかに低い。

2. 特定健診 編

令和5年度国保特定健診 受診率 44.3%（前年度受診率 44.0%）



- ・受診率の目標値である60%には達していない。
- ・男女ともに年齢が上がるにつれて、受診率が高くなっている。
- ・男性と女性では、男性の方が受診率が低い。

※特定健診結果総括表（令和5年度）

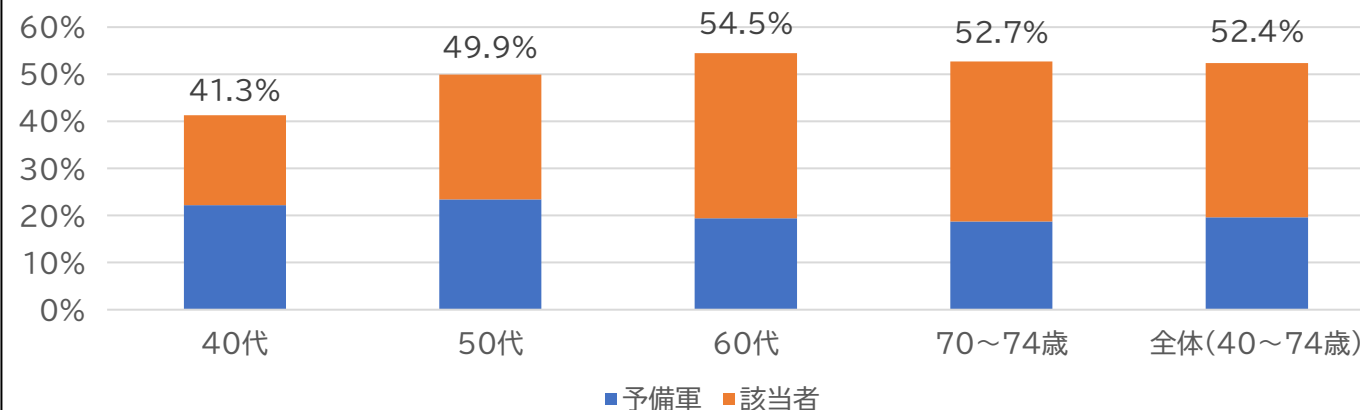
国保特定健診 メタボ予備群・該当者

令和7年度版

男性

	予備群	該当者
40代	22.2%	19.1%
50代	23.4%	26.5%
60代	19.4%	35.1%
70～74歳	18.7%	34.0%
全体(40～74歳)	19.6%	32.8%

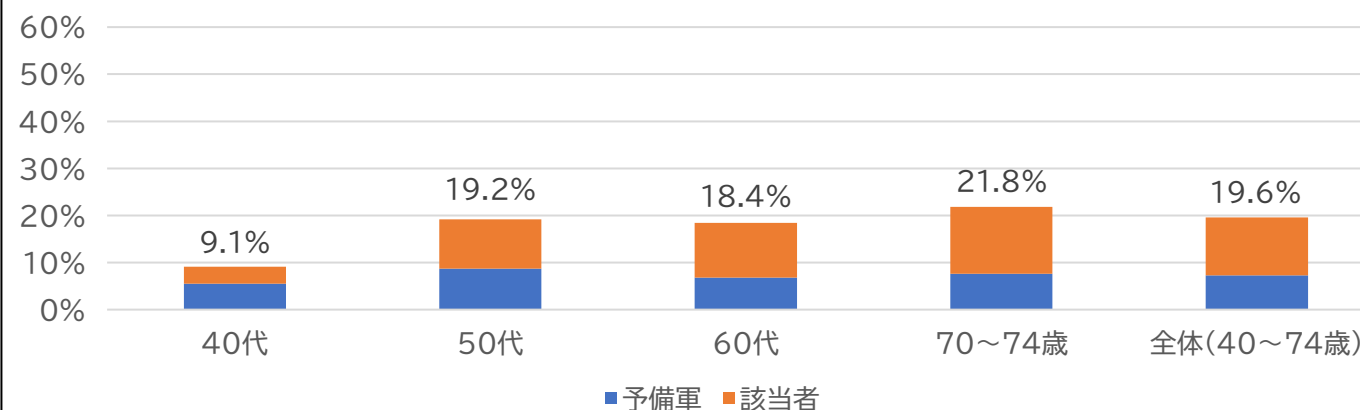
メタボ予備軍・該当者の割合（男性）



女性

	予備群	該当者
40代	5.5%	3.6%
50代	8.7%	10.5%
60代	6.8%	11.6%
70～74歳	7.6%	14.2%
全体(40～74歳)	7.3%	12.3%

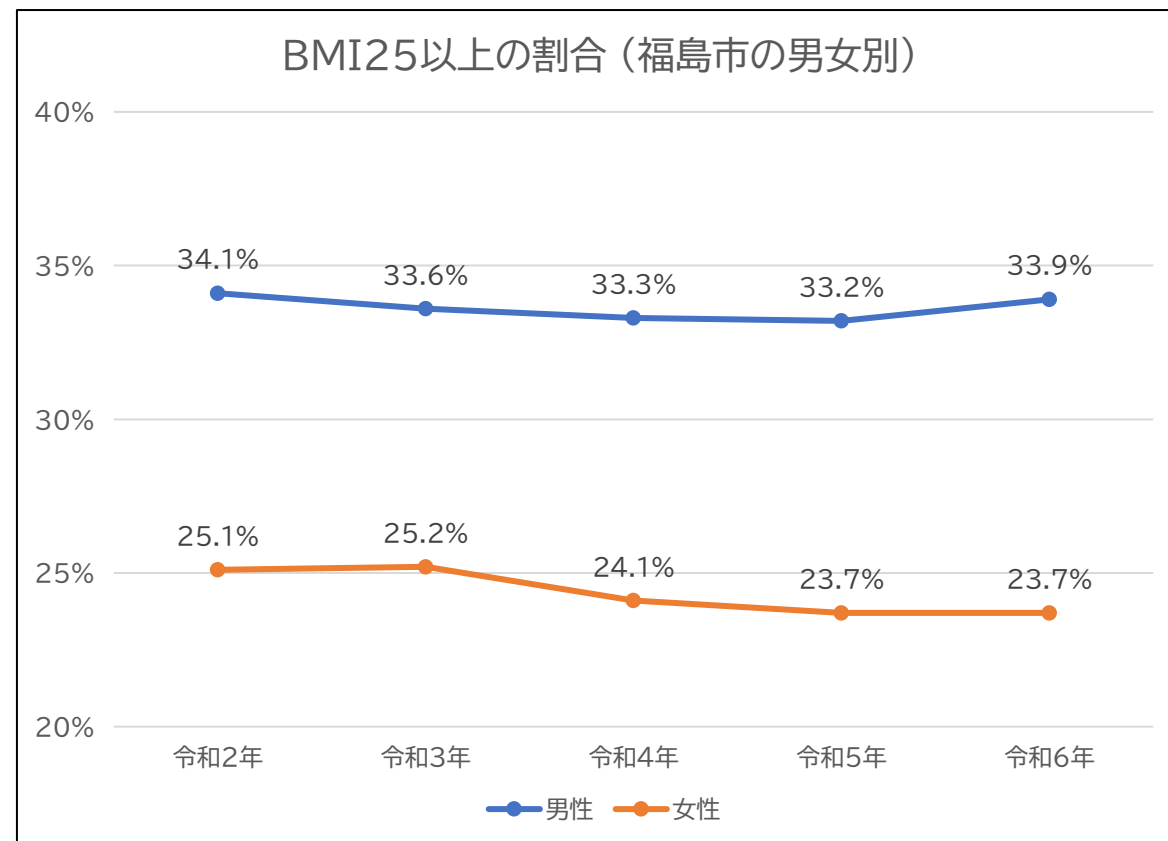
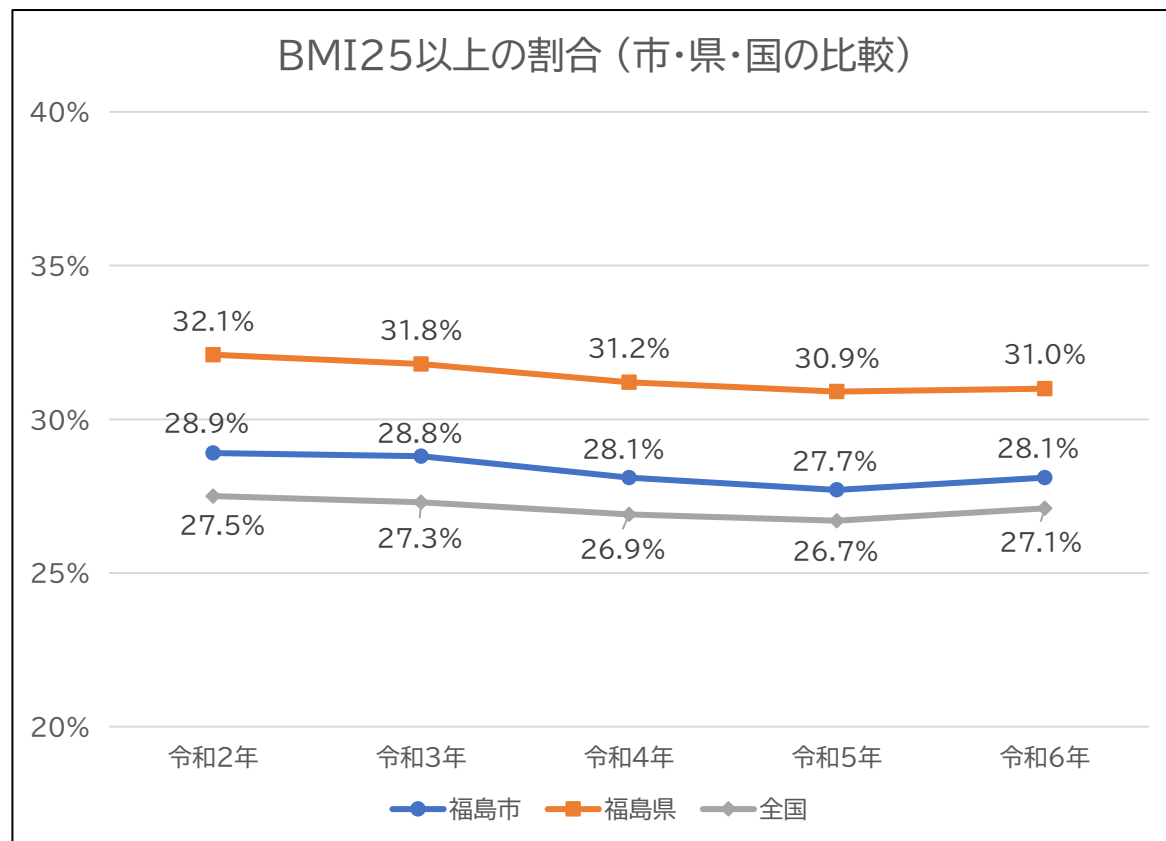
メタボ予備軍・該当者の割合（女性）



資料 KDB(令和6年度)

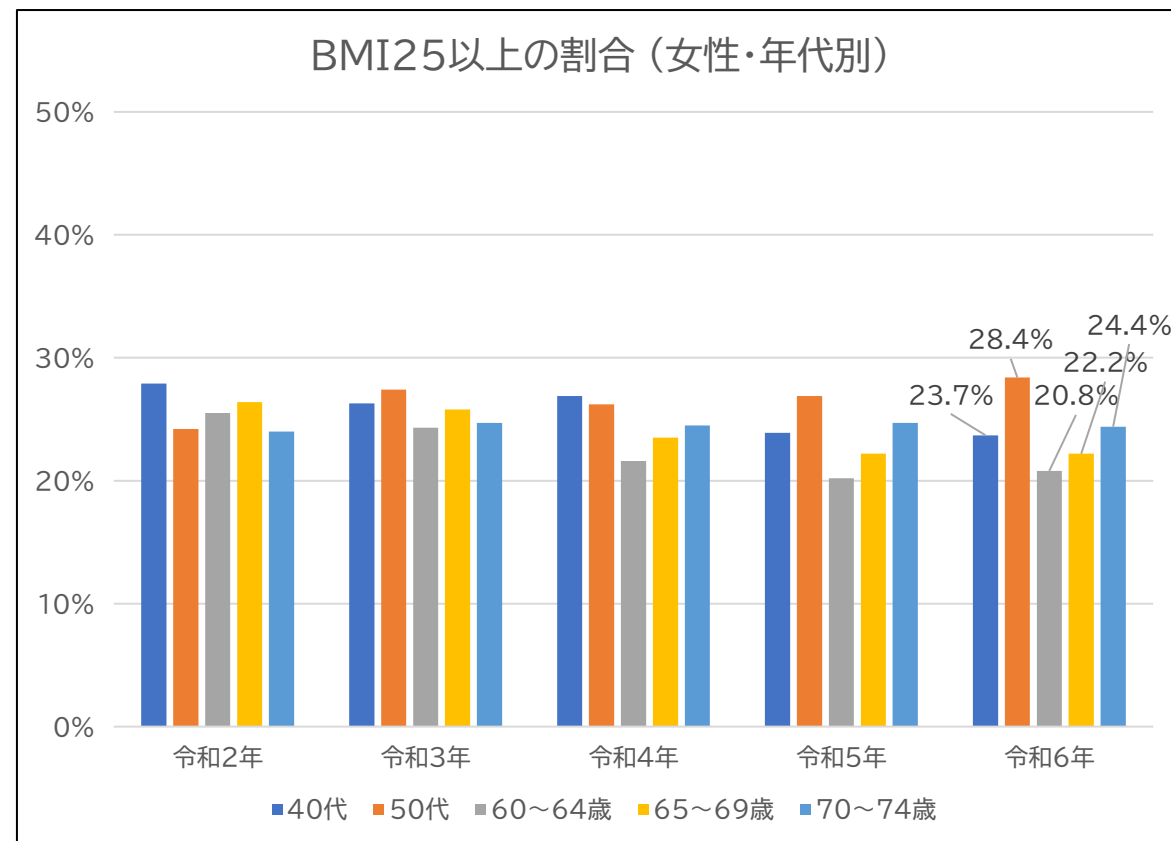
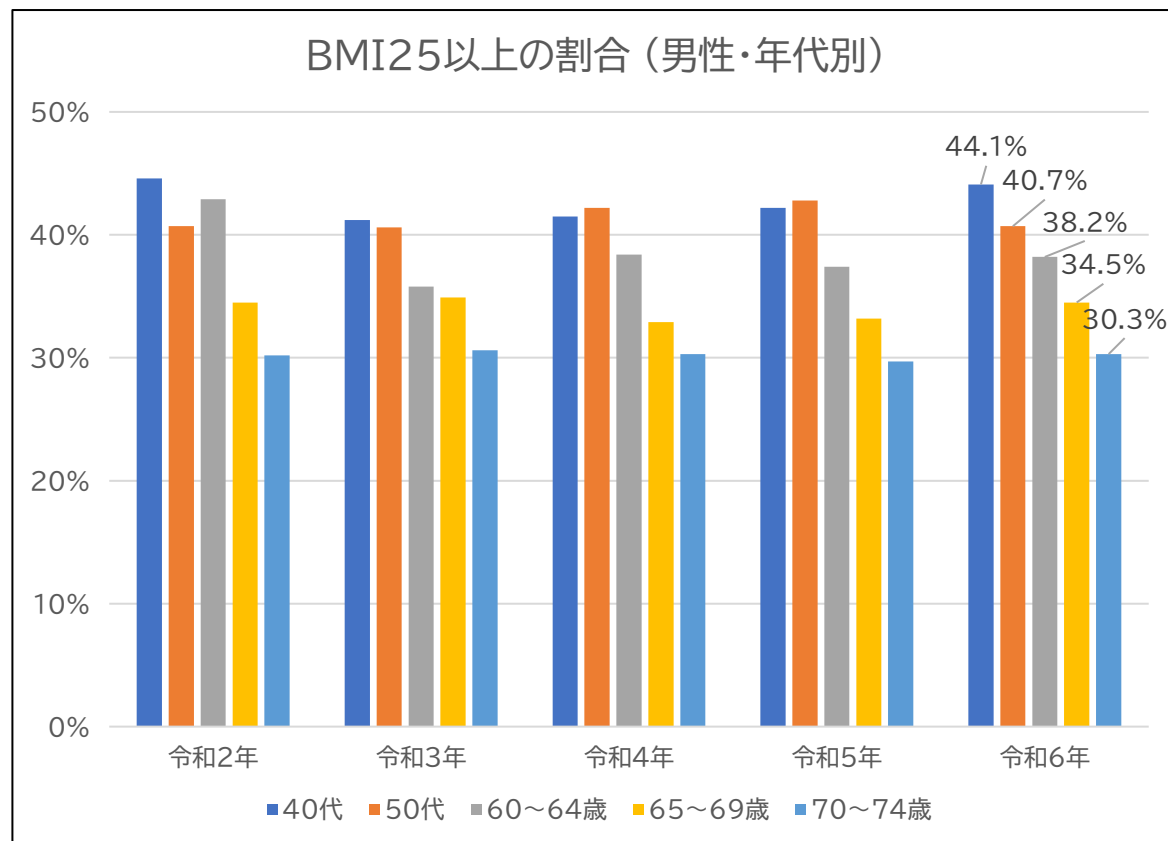
- ・すべての年代において予備群及び該当者ともに男性が女性を上回っている。
- ・男女ともに40代から50代にかけて該当者の割合が大きく増加している。

BMI25以上



- ・福島市のBMI25以上の人の割合は、全国より高く、福島県より低い傾向にある。
- ・福島市の男女別では、女性より男性の方が継続して9～10ポイントほど高くなっている。

BMI25以上

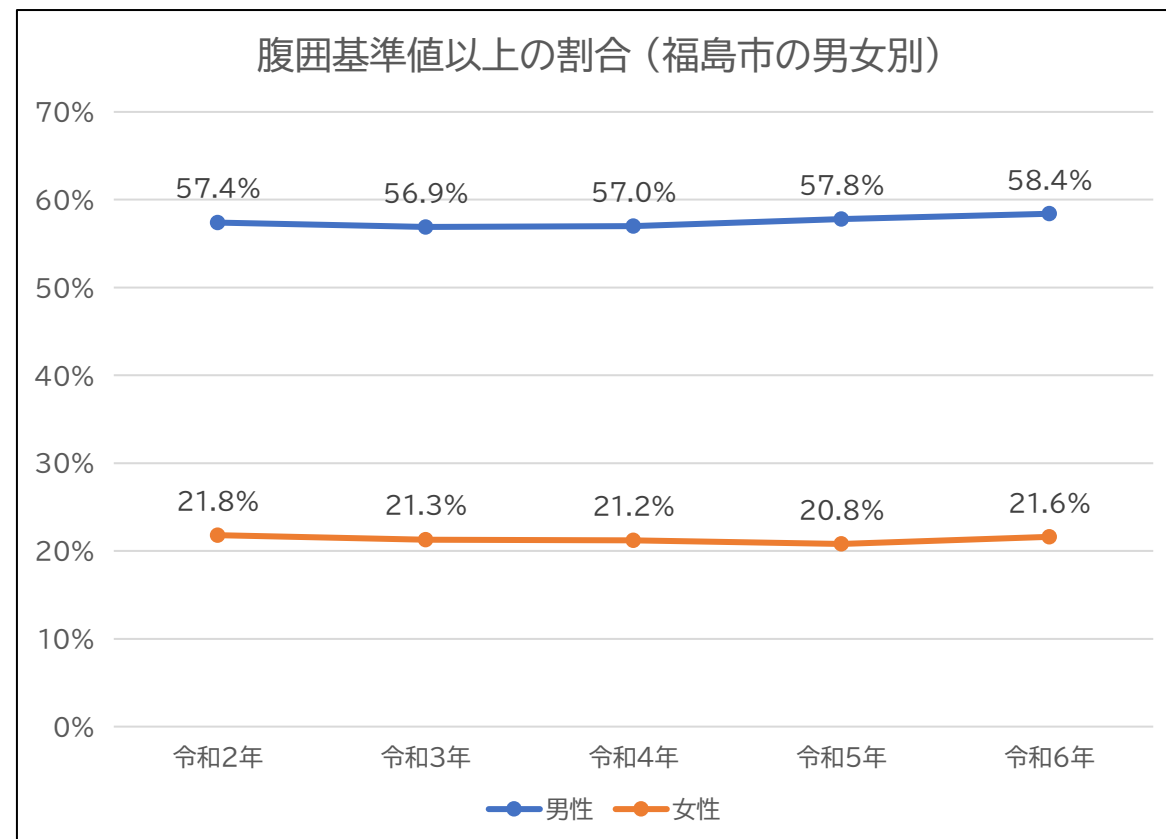
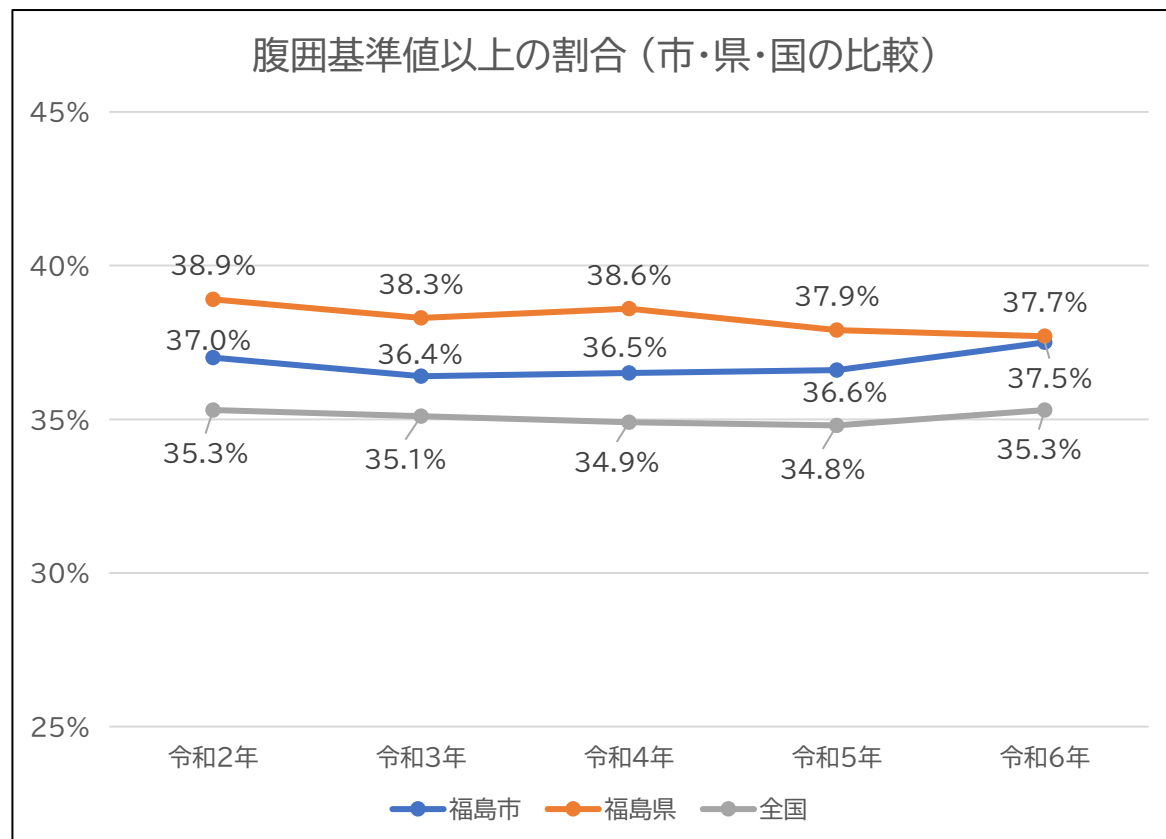


- ・男性のBMI有所見率は、年代が上がるにつれ減少する傾向があるが、女性は各年代の差が少ない傾向がある。
- ・令和6年のBMI有所見率は、男性は40代が最も高く、女性は50代が最も高い。

国保特定健診 有所見率 腹囲

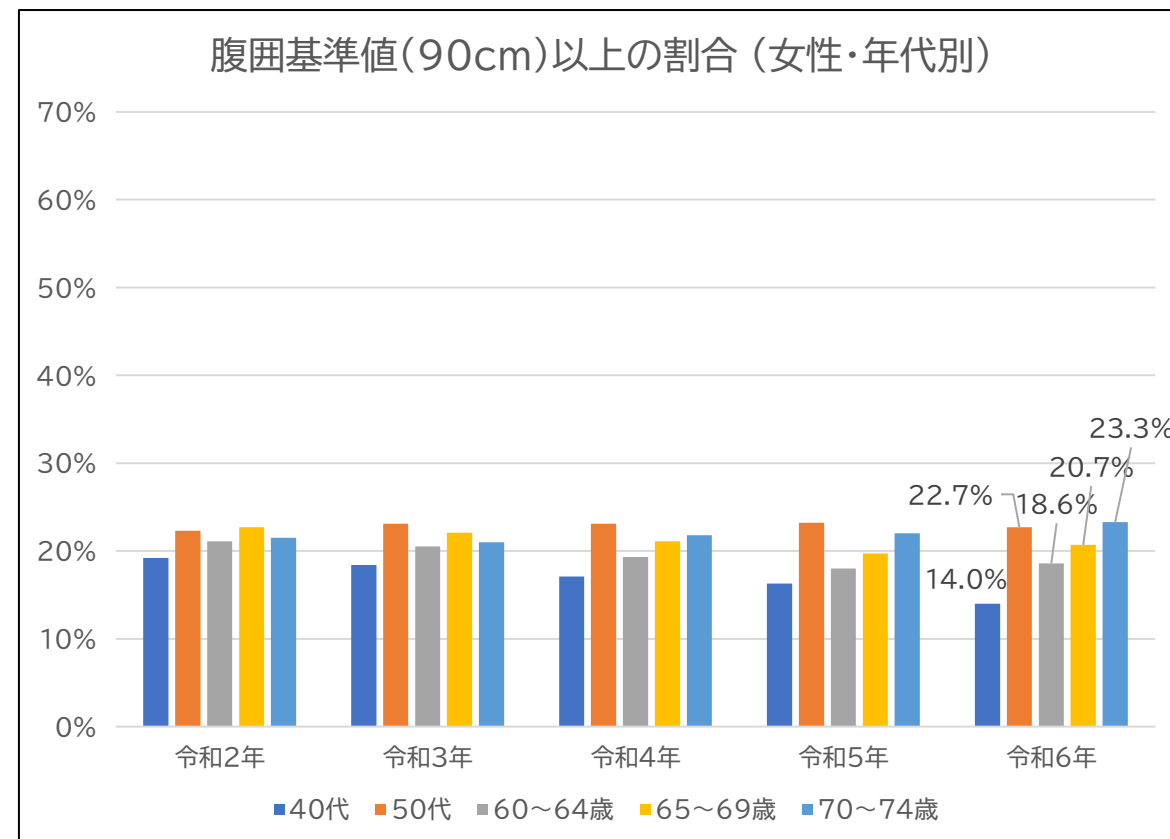
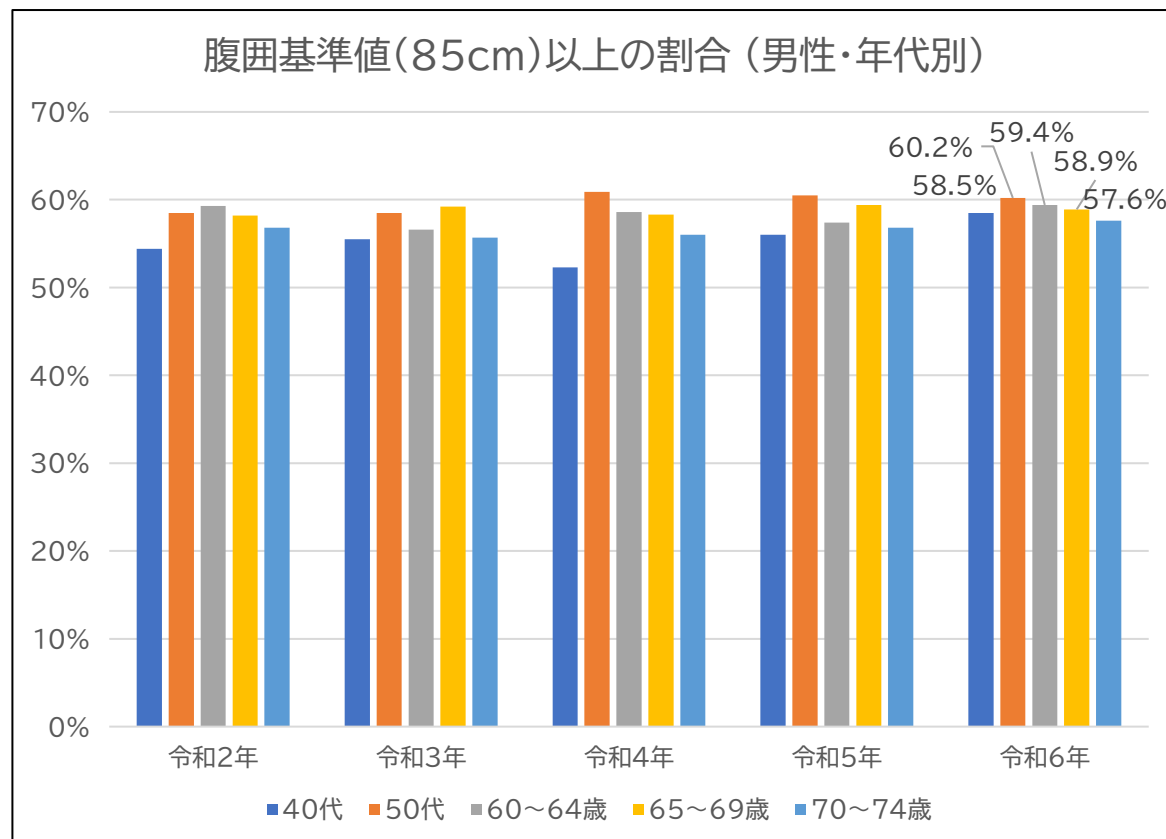
令和7年度版

腹囲基準値(男性85cm、女性90cm)以上



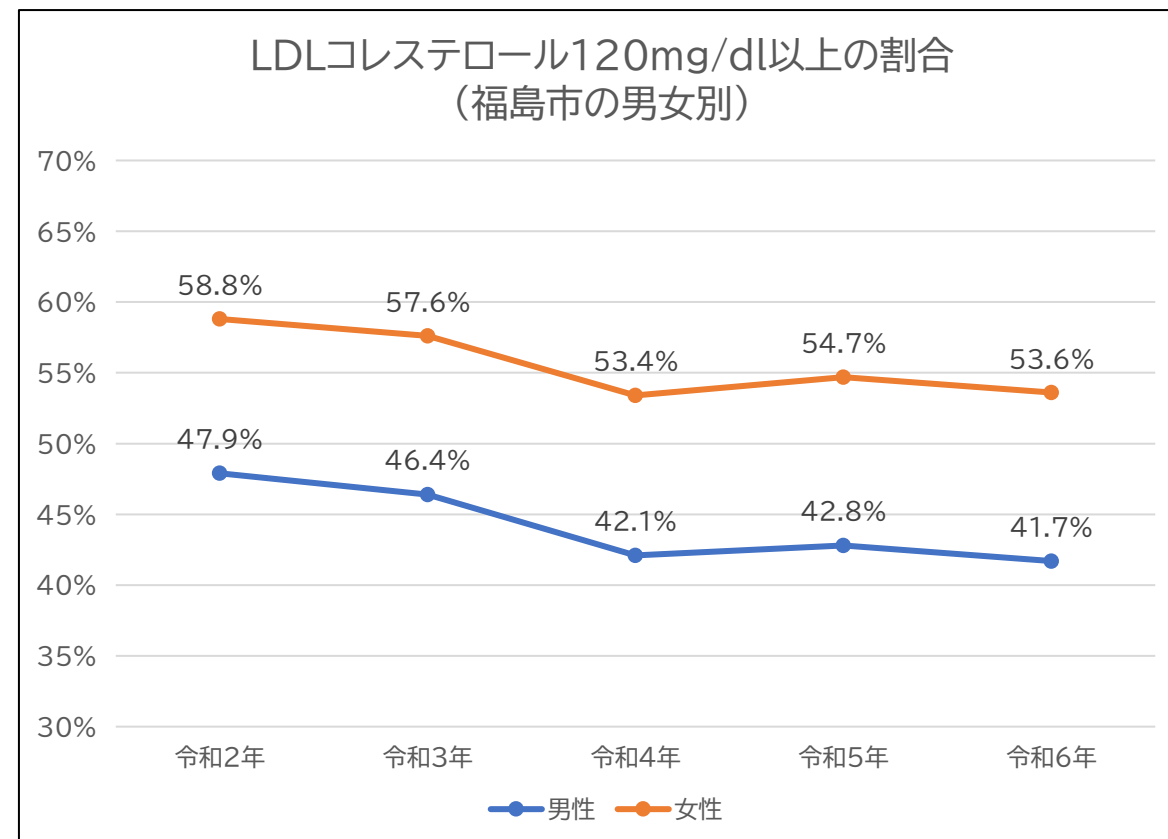
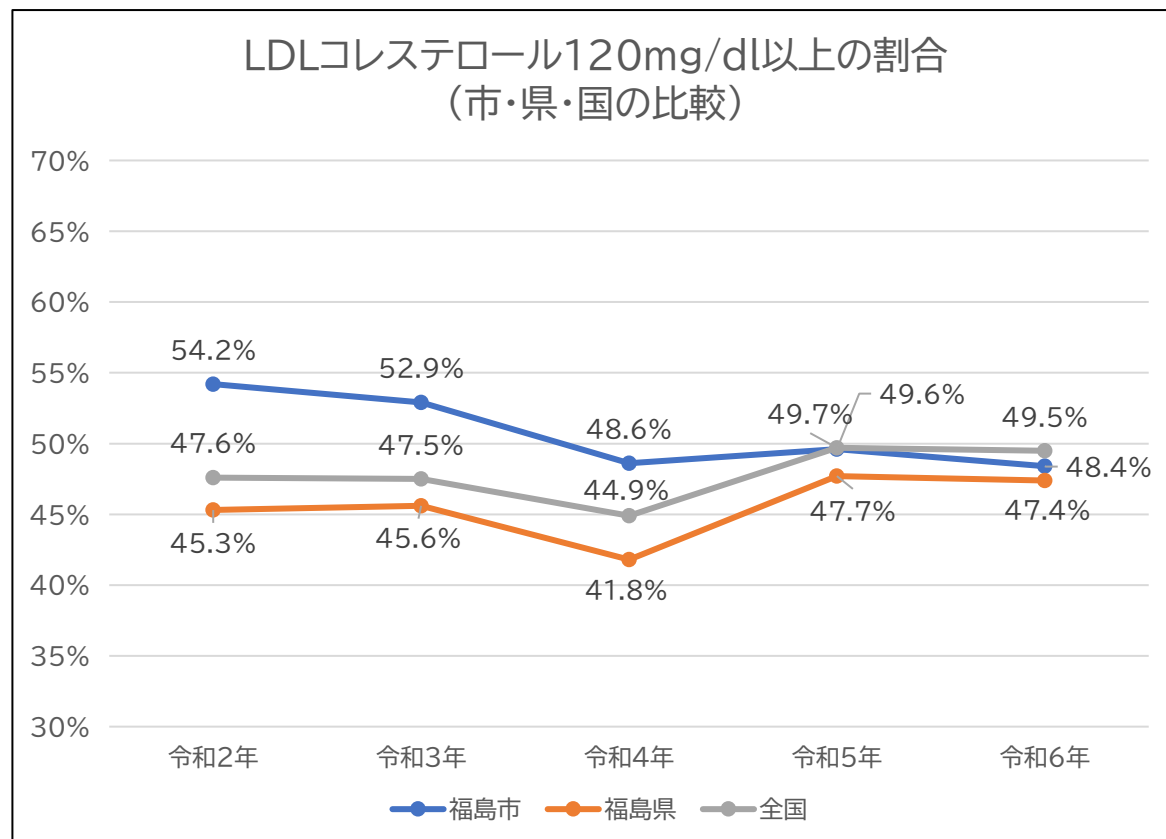
- ・令和5年以前は福島県より低い割合であったが、令和6年は福島市の有所見率が増加し、県とほぼ同じ割合となった。
- ・福島市では継続して基準値以上の人の割合が女性よりも35%ほど男性の方が高い。(男女差が顕著)

腹囲基準値(男性85cm、女性90cm)以上



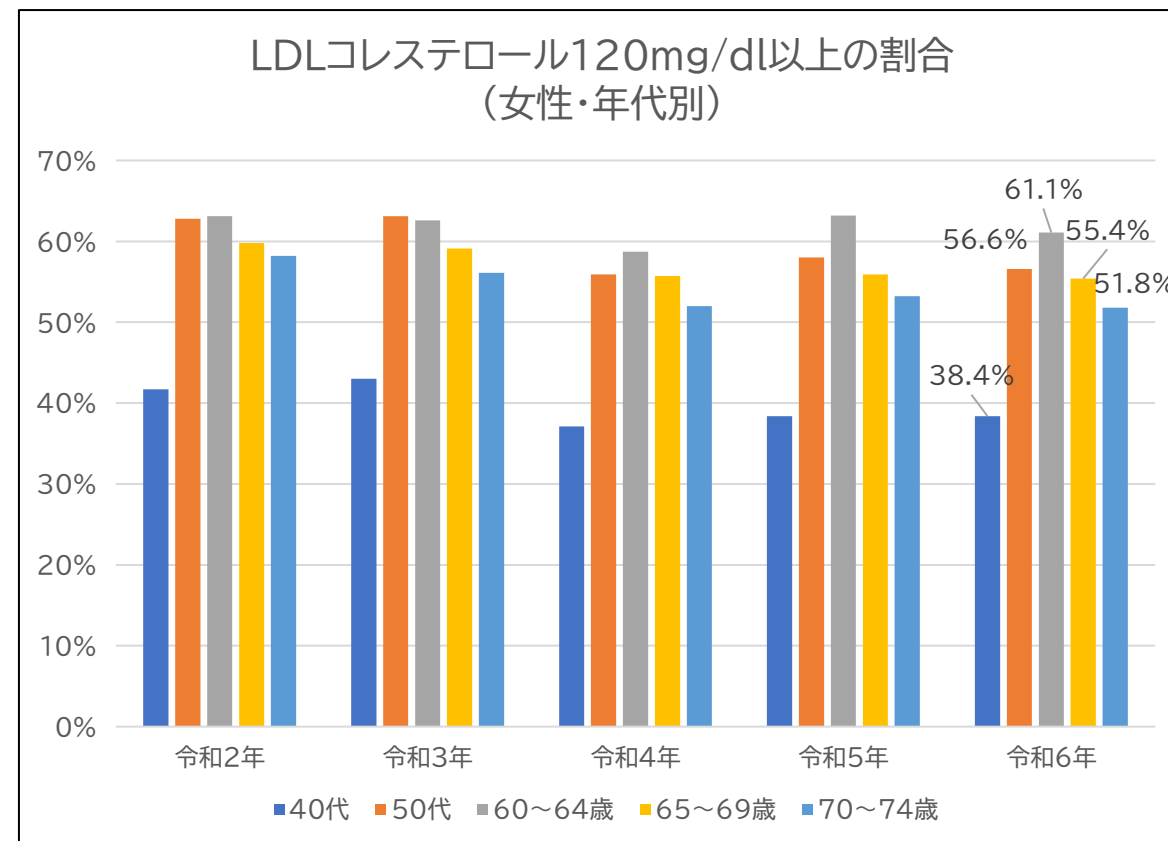
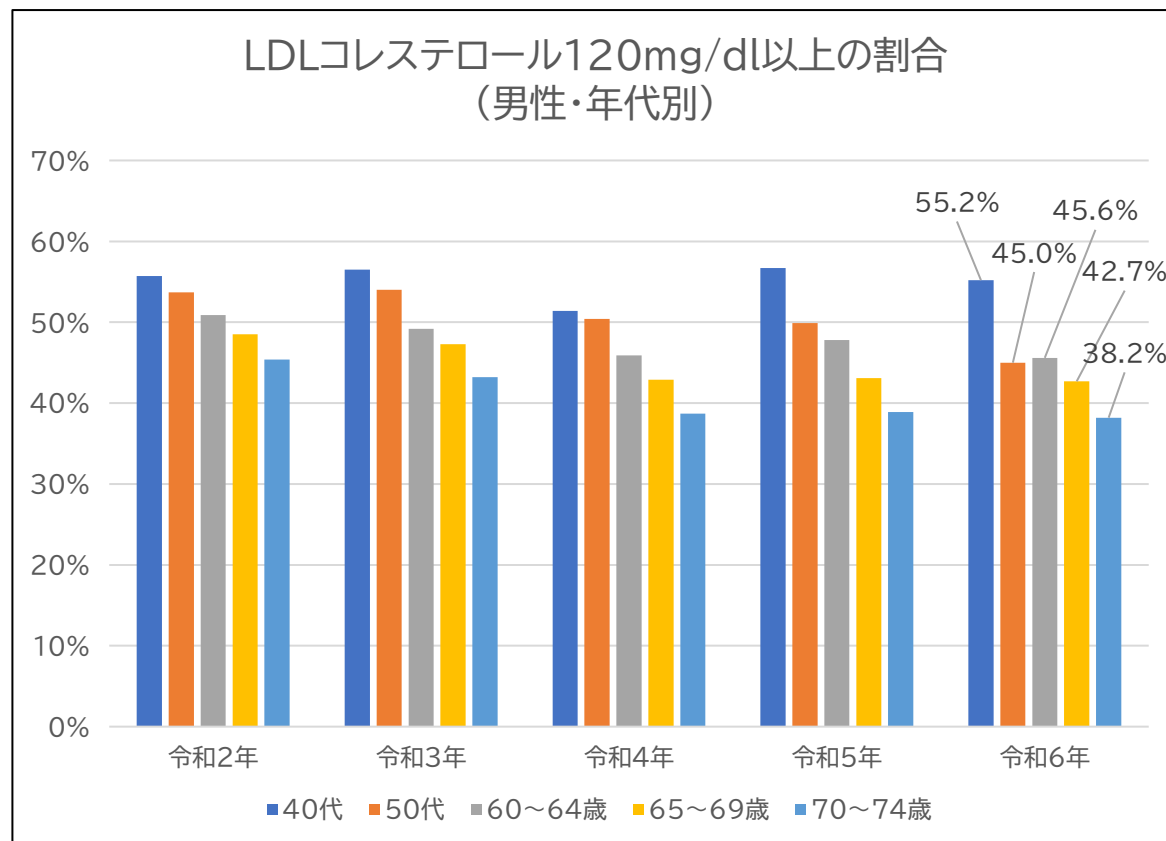
- ・男性は年代間の割合にあまり差がないが、女性は年代間の差が大きい。
- ・女性は年代が上がるごとに割合が高くなる傾向があるが、50代の割合が特出して高くなっている。
- ・40代から50代にかけて、割合が大きく上昇している様子がわかる。

LDLコレステロール 120mg/dl以上



- ・令和2年時点では、福島市の有所見率は県・国と比べて高かったが、徐々に低下がみられ、令和6年時点では県・国とほぼ同じ割合となった。
- ・男女別では男性より女性の方が高く、11～12ポイントほどの男女差がある。

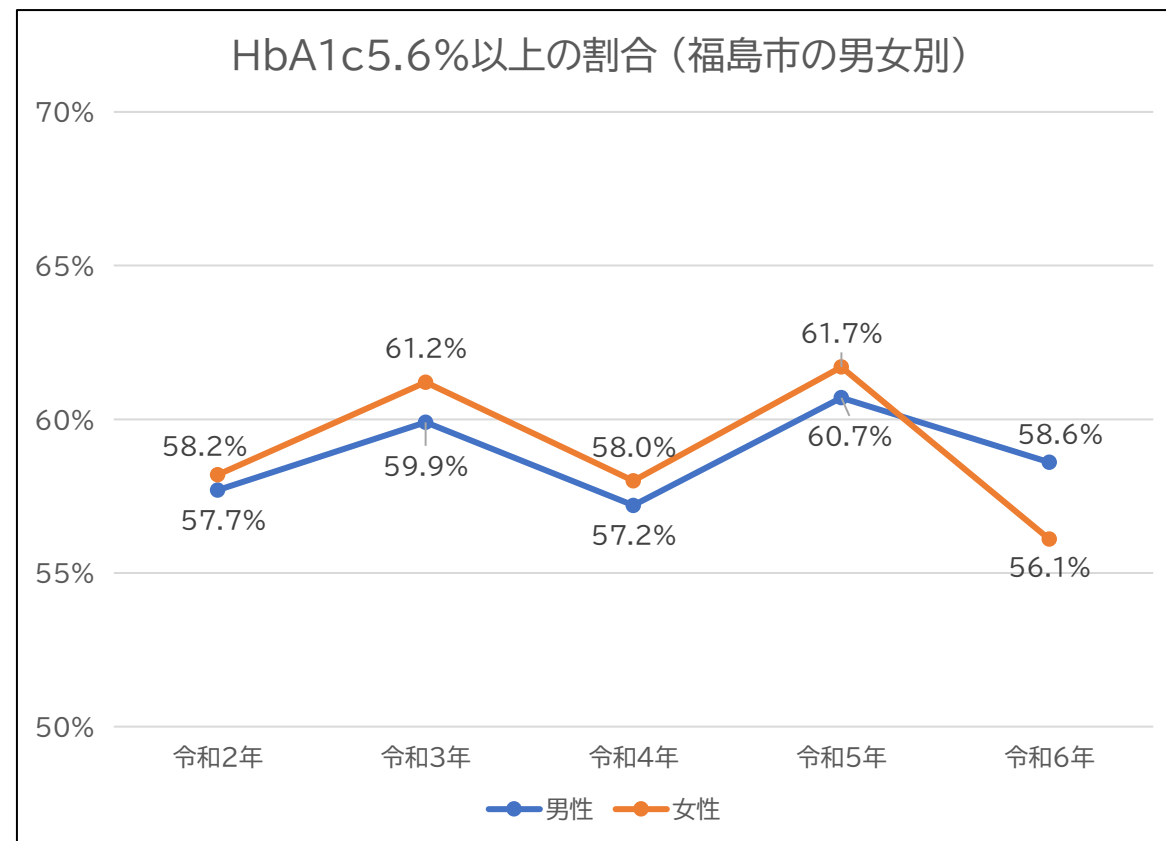
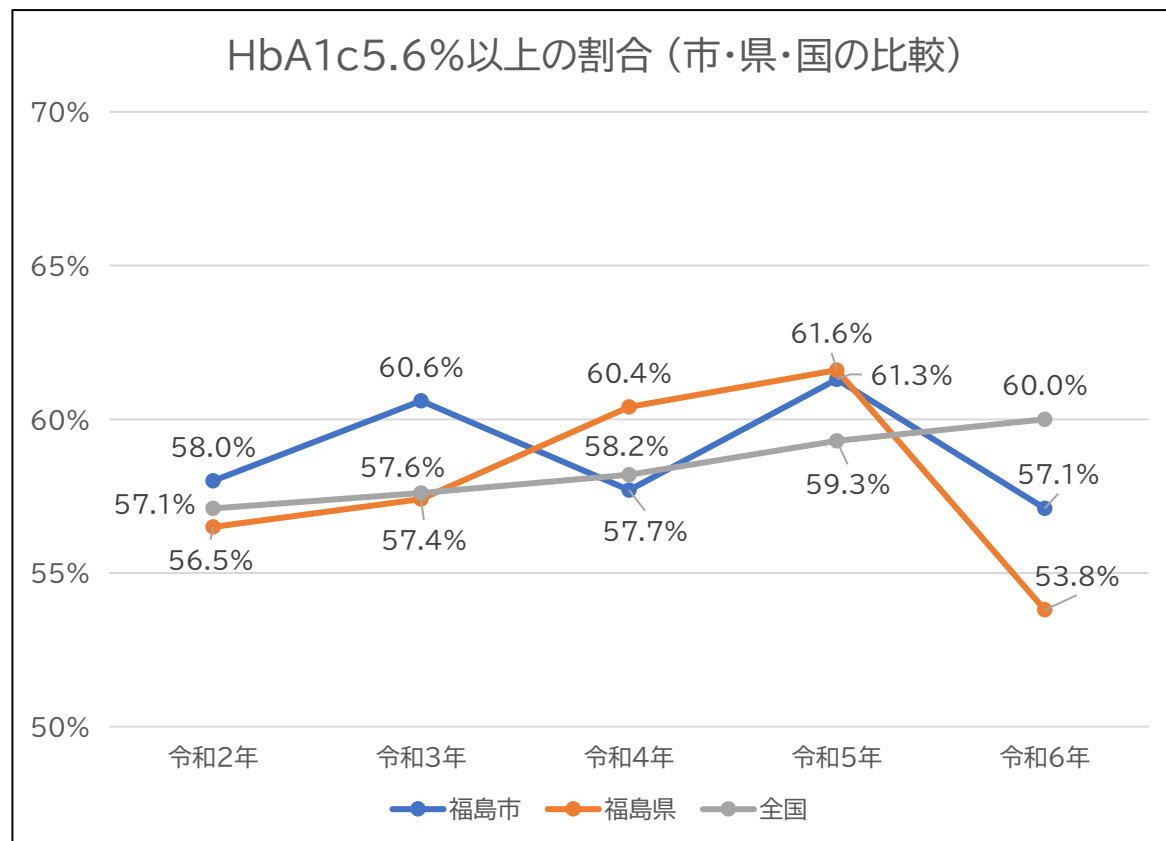
LDLコレステロール 120mg/dl以上



- ・男性は40代の有所見率が最も高く、年代が上がるにつれ有所見率が下がる傾向がある。
- ・女性は40代が最も低く、60代前半でピークとなり、60代後半以降は徐々に下がる。
- ・40代から50代にかけて、女性の有所見率は大きく増加する。

HbA1c 5.6%以上

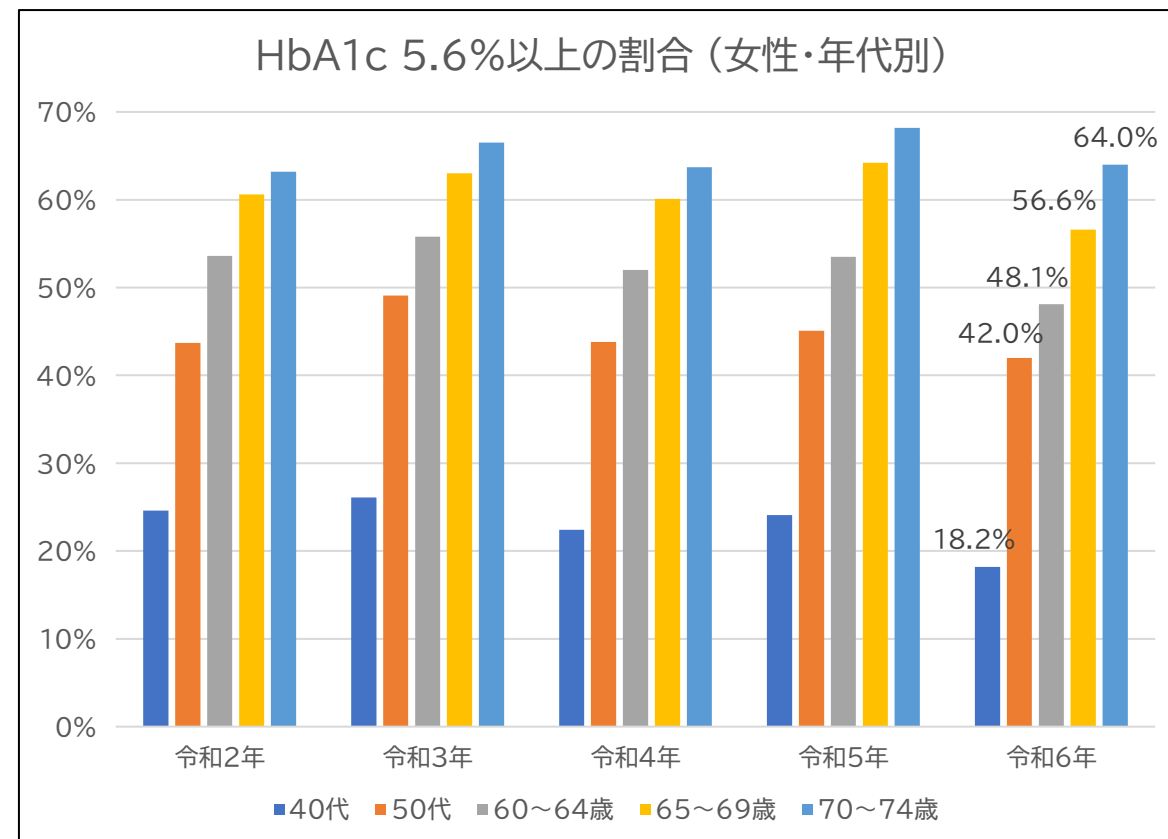
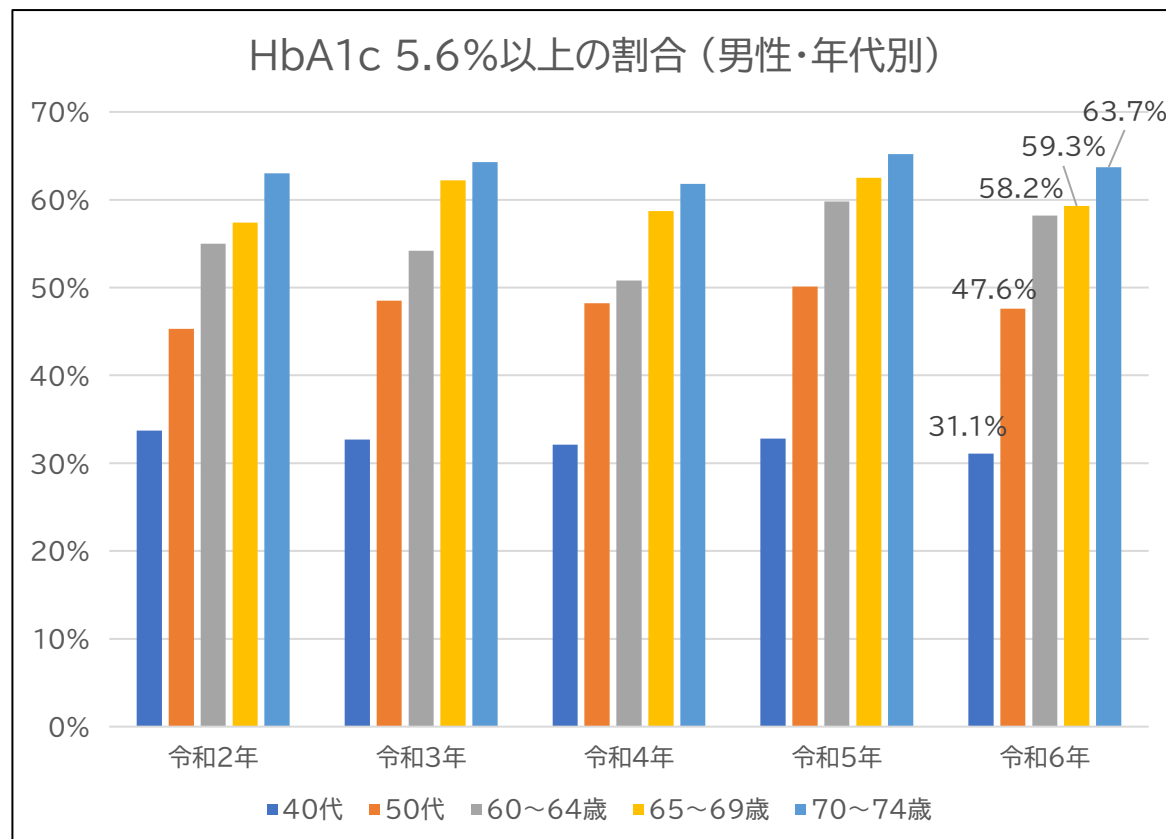
※HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー):糖尿病の指標の一つ。過去1～2ヶ月間の血糖値の平均状態がわかる。



- ・令和5年までは福島市、福島県、全国の有所見率に大きな差は見られなかったが、令和6年は福島県の割合が大幅に低下した。
- ・福島市の令和6年の有所見率は、福島県より高く、全国より低い。
- ・福島市女性の令和6年の有所見率は、令和5年から5.6ポイント低下しており、福島市男性より低い割合となった。

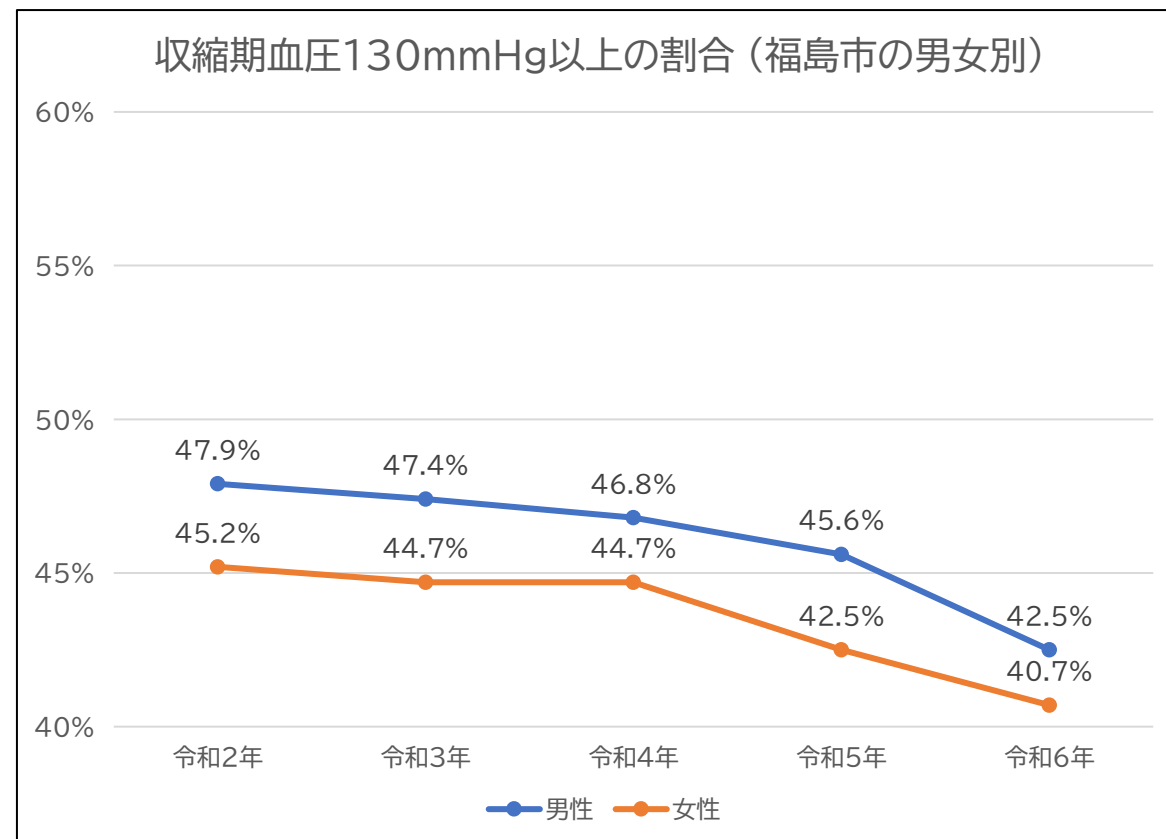
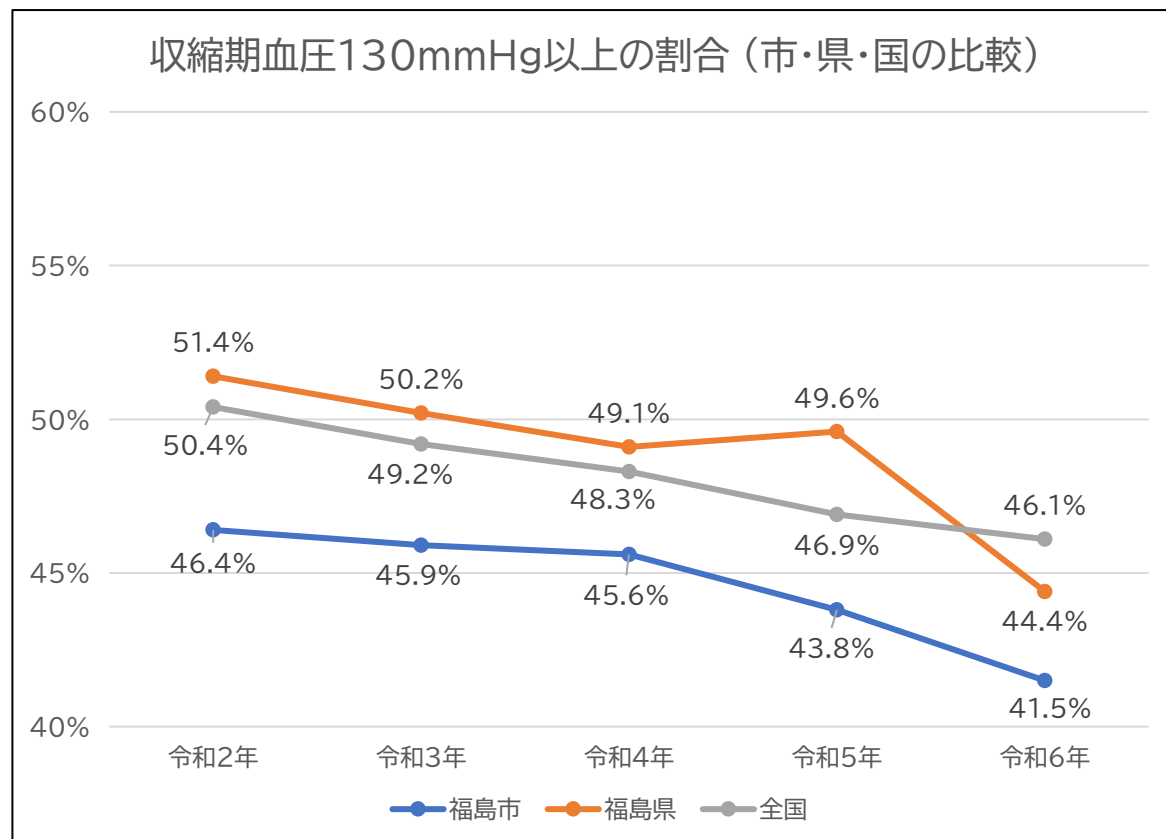
HbA1c 5.6%以上

※HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー):糖尿病の指標の一つ。過去1～2ヶ月間の血糖値の平均状態がわかる。



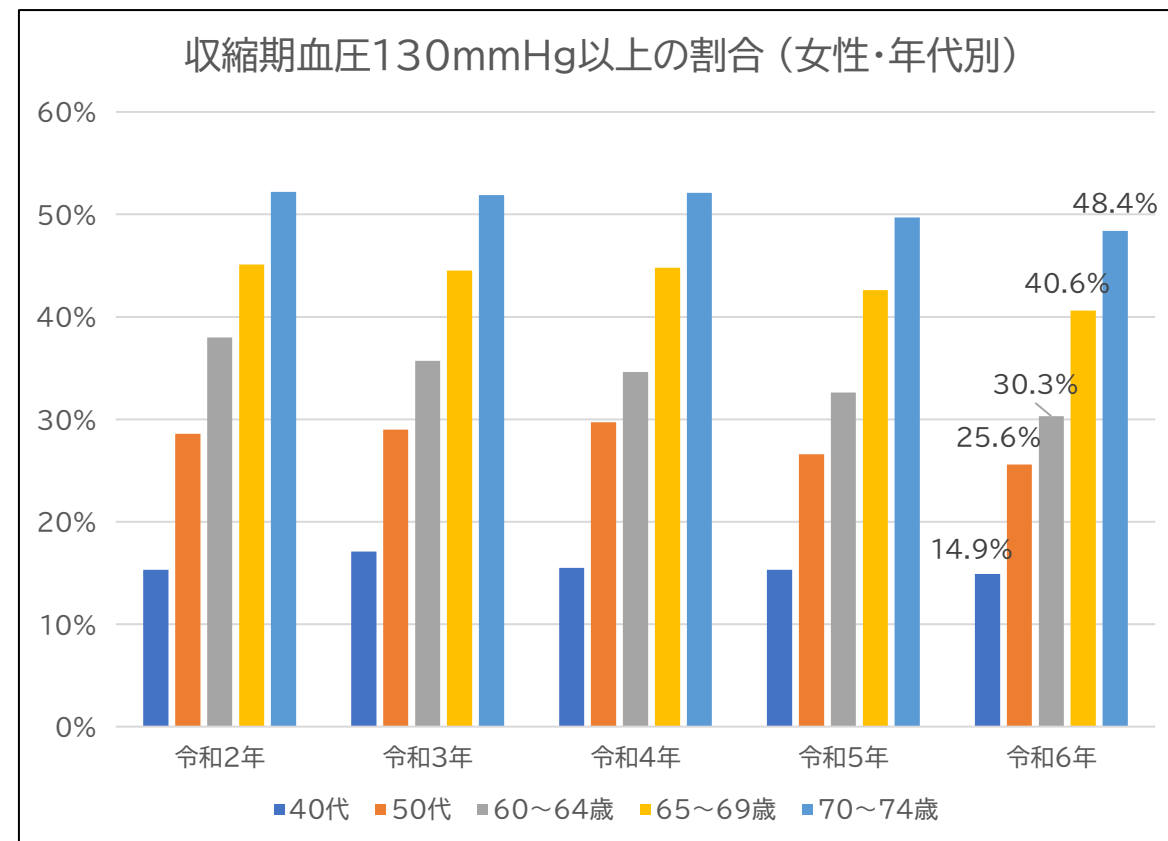
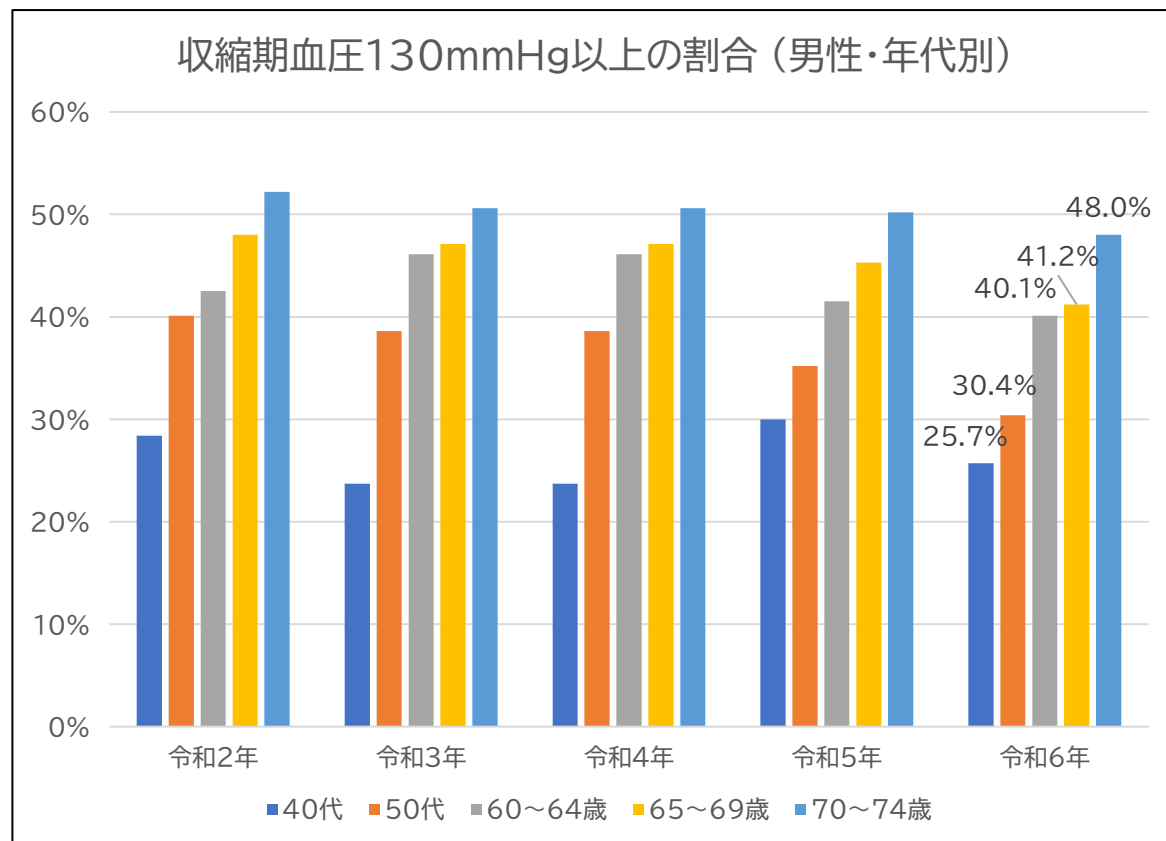
- ・男性女性ともに、年代が上がるにつれ有所見率が増加する傾向にある。
- ・40代において特に男女差が大きく、男性の方が女性より約13ポイント高い割合となっている。
- ・女性は、40代から50代にかけて、有所見率が大幅に増加する傾向にある。

収縮期血圧 130mmHg以上



- ・福島市の有所見率は福島県、全国より低い値で推移しており、直近5年間は減少傾向にある。
- ・福島市の男女差は約2～3ポイントで、わずかに男性が高いが、男女ともに減少している。

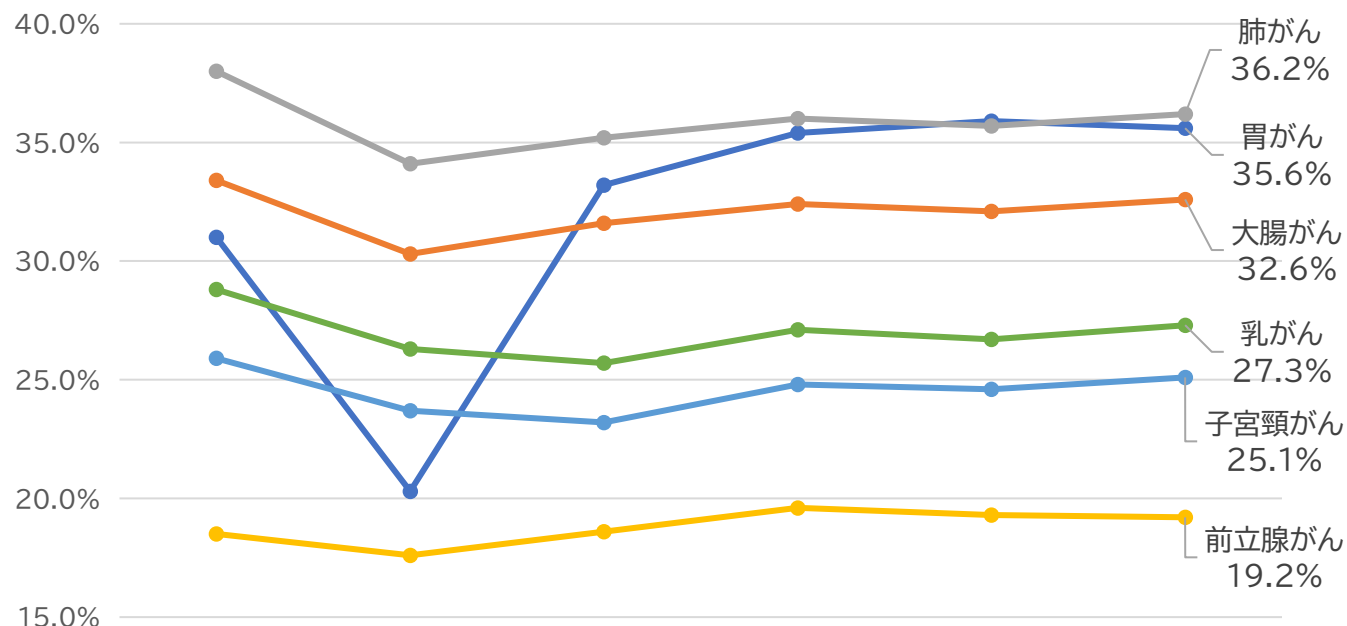
収縮期血圧 130mmHg以上



- ・男性女性ともに、年代が上がるにつれ有所見率が増加する傾向にある。
- ・男性女性ともに70代の有所見率は同程度だが、40代～60代前半においては女性より男性が高くなっている。

3. がん検診 編

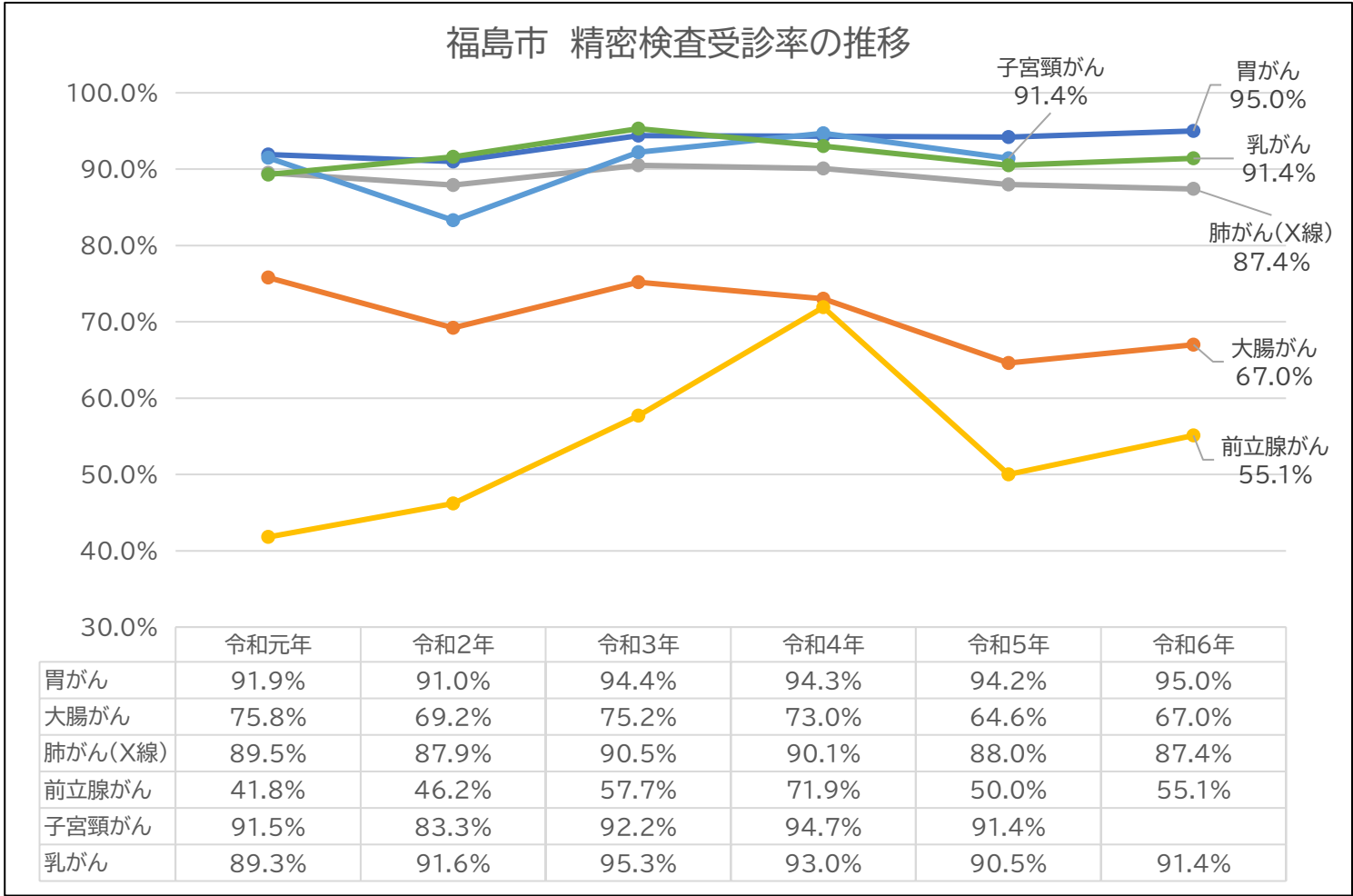
福島市 がん検診受診率の推移



・がん検診の受診率は令和2, 3年度はコロナ禍の影響により減少した。令和4年度以降は回復傾向にあるものの、厚生労働省の目標値には至っていない。

・令和2年度の胃がん検診受診率が低下している理由は、新型コロナの感染リスクを考慮し胃がん検診のみ7月より開始され、実施期間が1か月短かったことやコロナによる受診控えが影響していると考えられる。

【参考】がん検診の受診率 目標 60%以上(厚生労働省)



令和5年度 精密検査状況

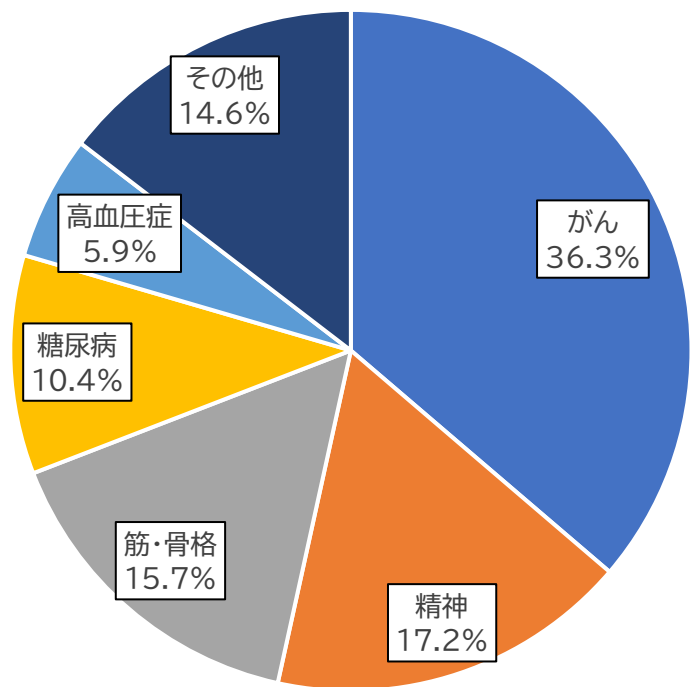
	要精検者	精検受診者	がんであった者
胃がん	693	653	86
大腸がん	1,919	1,240	43
肺がん	939	826	5
前立腺がん	264	132	12
子宮頸がん	106	96	1
乳がん	222	201	13

資料 保健衛生事業の概要

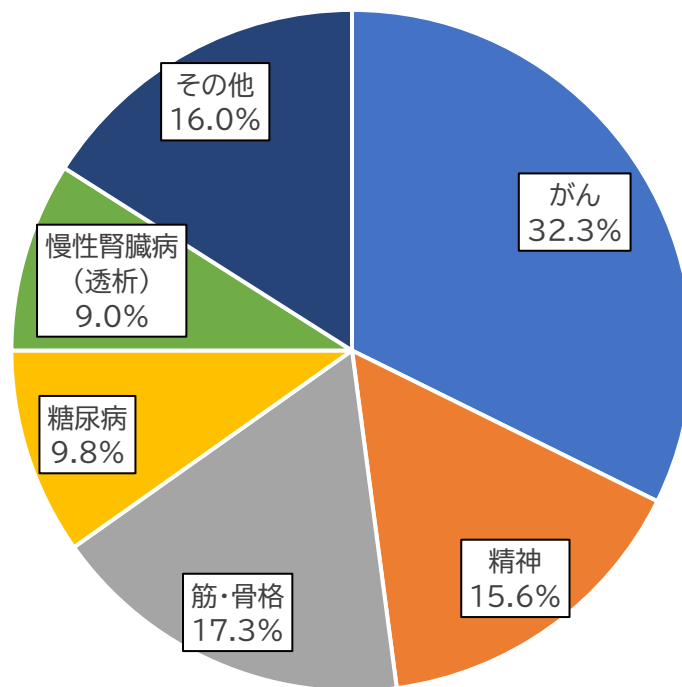
・胃がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんの精密検査受診率は9割近い値であるが、大腸がん、前立腺がんは受診率が低くなっている。

4. レセプト 編

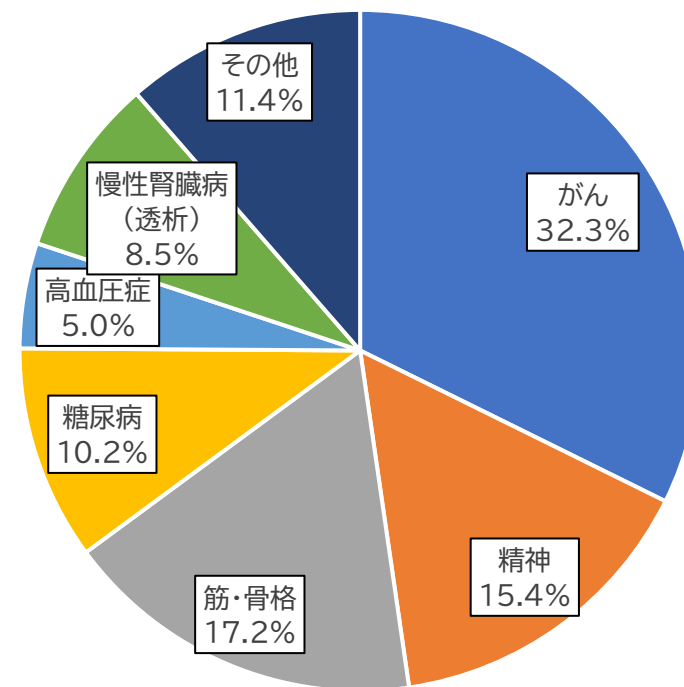
福島市



同規模※



国



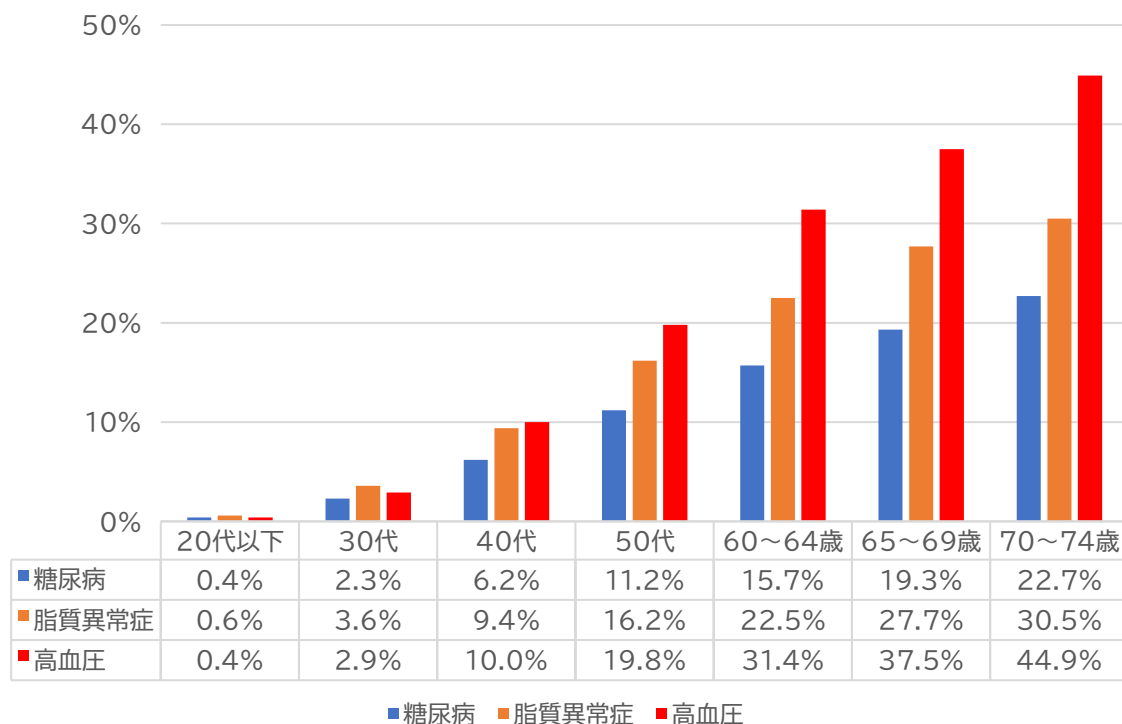
資料 令和6年国保データベース(KDB)システムより
 ※人口や非保険者数をもとに保険者規模を分類した区分
 ※5.0%未満の分類は「その他」に含まれる

- ・福島市は同規模、国と比較して、がん、精神、高血圧症の占める割合が大きく、筋・骨格の占める割合は小さい。
- ・福島市では、がんと精神の2項目で、医療費全体の50%を超えている。

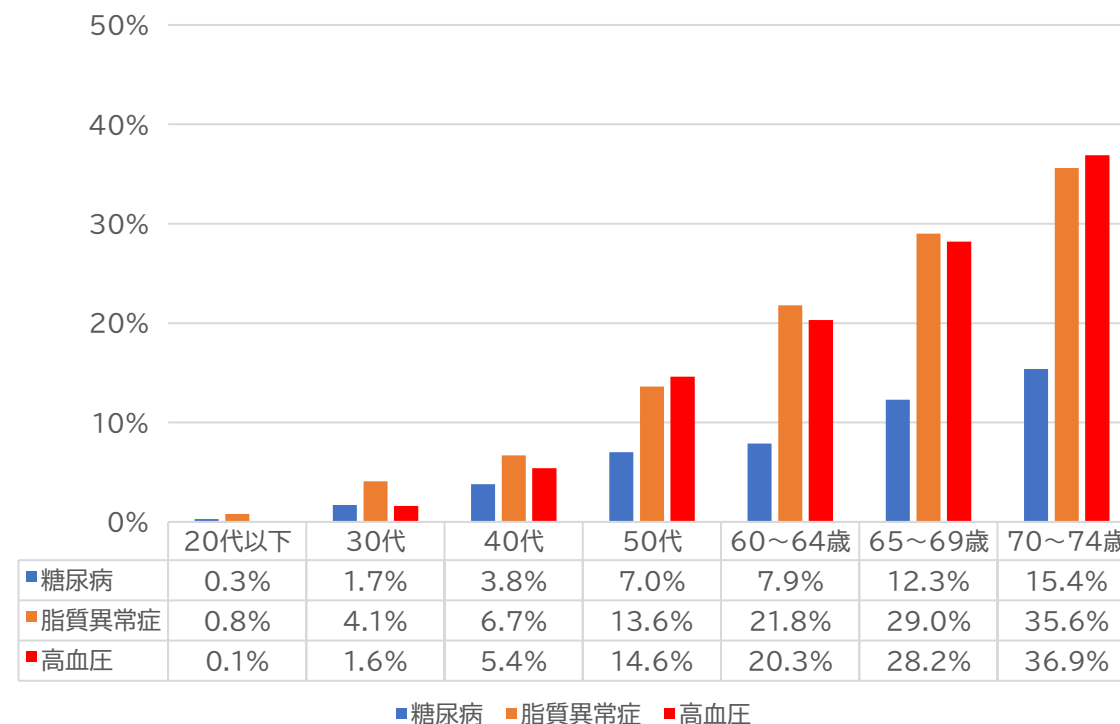
性別年齢別 各疾病有病率

令和7年度版

各疾病有病率（男性・年代別）



各疾病有病率（女性・年代別）



資料 国保データベース(KDB)システム
レセプトデータ(R6.5月診療分)より

- ・高血圧、糖尿病は男性の方が高い傾向。脂質異常症は65歳以降になると女性の方が高い傾向がみられる。
- ・男性では年齢が上がるごとに3疾病の有病率も高くなってる。特に高血圧は50代以降から高い傾向にある。
- ・女性では特に脂質異常症、高血圧が高い傾向にある。

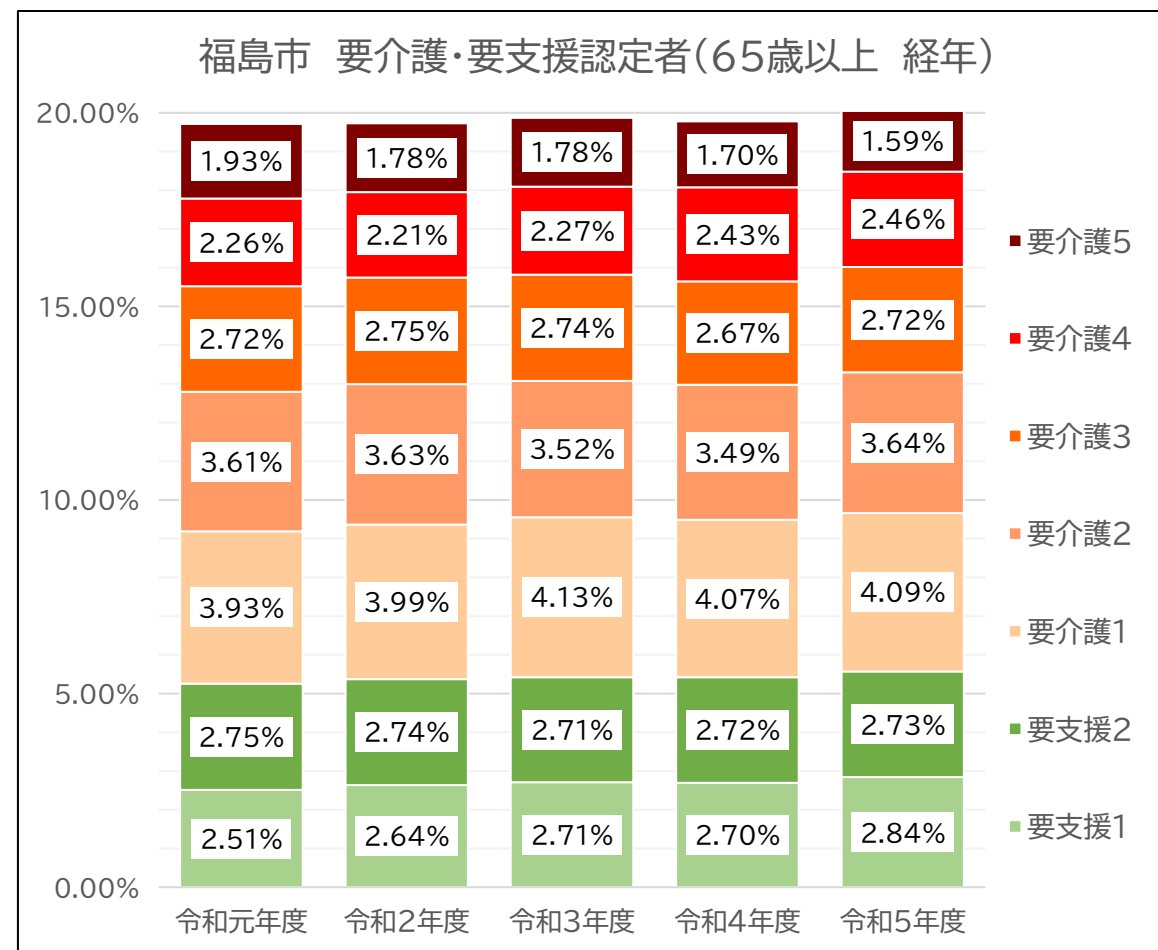
5. 介護保険 編

要介護・要支援認定者

令和7年度版

令和5年度 要介護・要支援認定者(65歳以上 男女別)

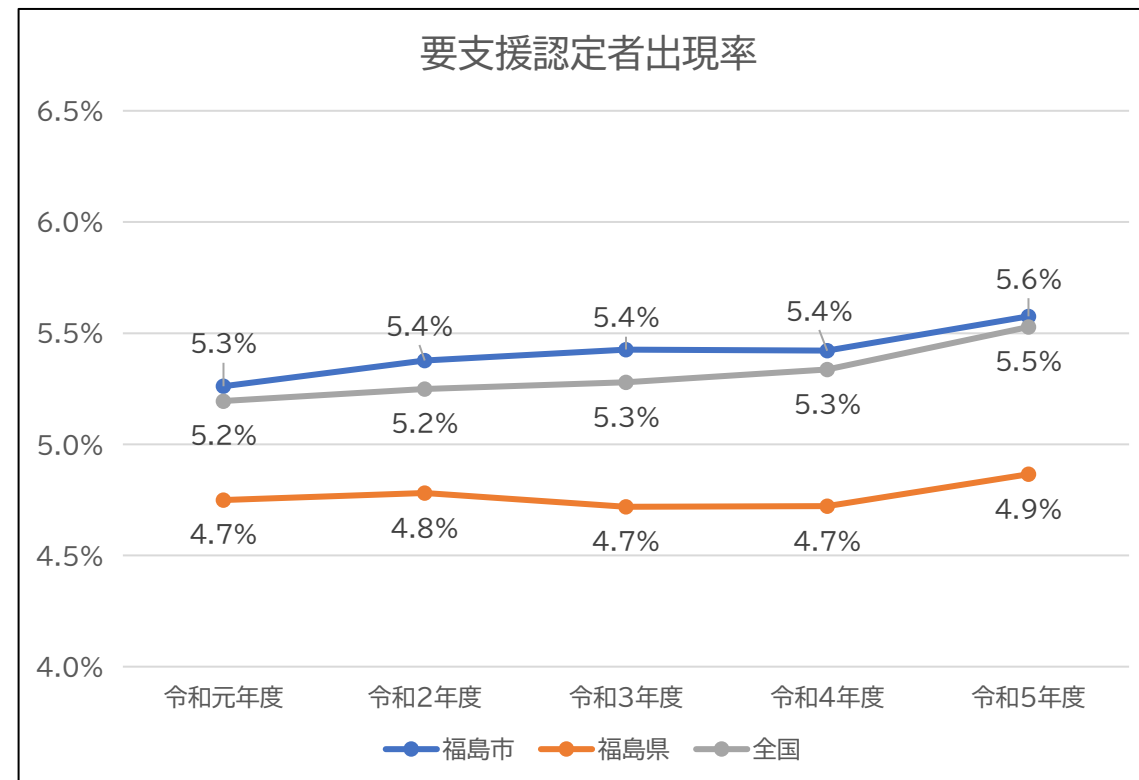
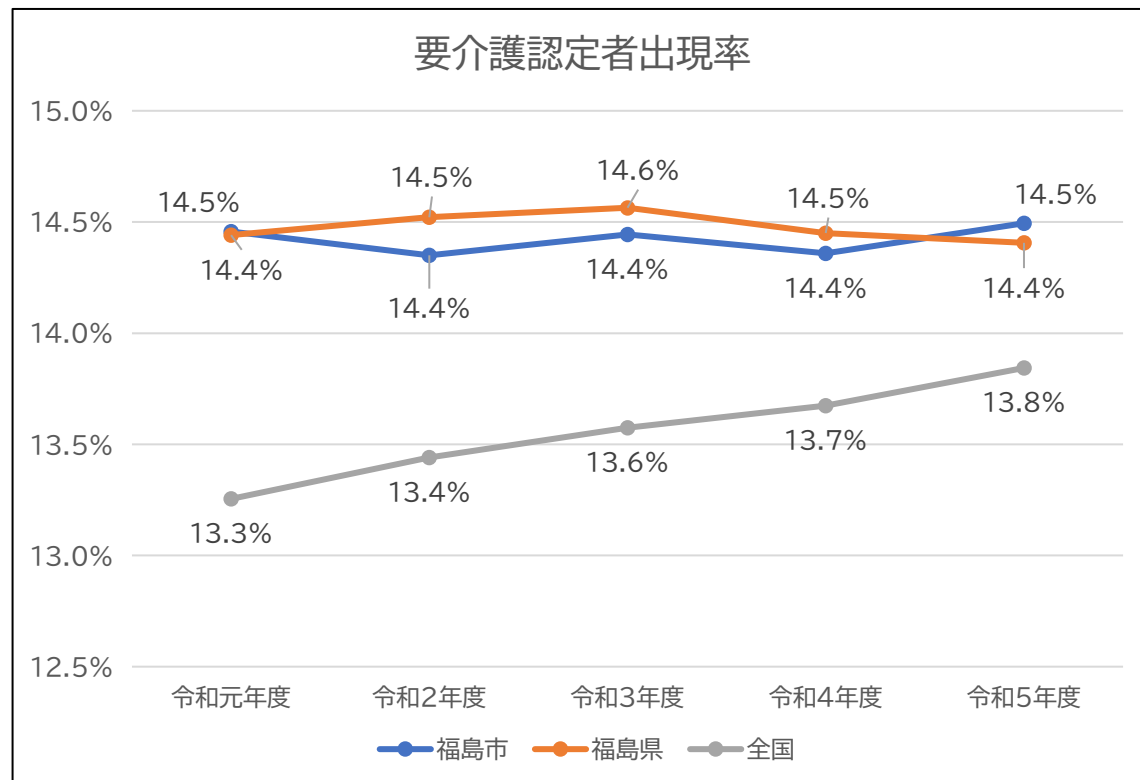
	男性	女性
要介護5	1.03%	2.03%
要介護4	1.52%	3.18%
要介護3	1.98%	3.29%
要介護2	2.98%	4.15%
要介護1	3.19%	4.78%
要支援2	1.73%	3.51%
要支援1	1.97%	3.51%



資料「福島市」福島市の介護保険

- ・男性より女性の認定者出現率が高く、約2倍となっている。
- ・要介護5認定者の割合は減少しているが、要支援1認定者の割合が増加している。

福島市 要介護・要支援認定者(65歳以上 市・県・国比較)



資料「福島市」福島市の介護保険 「福島県・全国」介護保険事業状況報告(年報)

- ・福島市の要介護認定者出現率は福島県と同等で推移しているが、令和5年度は全国と比較すると0.7ポイント高い。
- ・全国における要介護認定者出現率は増加傾向にあるが、福島市はほぼ横ばいで推移している。
- ・福島市の要支援認定者出現率は増加しており、福島県より0.6ポイントほど高い状況である。